

わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

7 2015.7 NO.438
初夏号
第67巻1号

大縄大会「3年生の見事な跳びっぷり」

本校恒例の大縄大会の様子です。1年生から3年生まで連続回数と累計回数で競います。

大縄の競技を通して4月の1カ月間でどこまで団結できるようになったかを確かめる行事になっています。

今年度は3年生がどちらの競技でも1位から3位までを占めました。さすが学校のリーダー学年、団結力も4月でかなり築きあげています。

ぎふしりついわの だちゅうがっこう
岐阜市立岩野田中学校

●【学校の教育目標】

「高い志をもち 仲間と共に 自立する自分をめざせ」

今年度は特に、①学力を伸ばす ②自分達の文化を磨く ③積極的に地域貢献をするを重点にして取り組んでいます。

がんばる子らの汗と笑顔と眼差しと

岐阜市立岩野田中学校



入学式「新しい歴史が始まる」

1年生代表が「みんなで協力し、何にでも挑戦するという気持ちで3年間がんばります。」と力強く話をしました。



学級びらき「2年生、笑顔いっぱい」

4月から2年生は先輩という立場になりました。明るい表情で日常生活も1年生をリードしていきます。



対面式「1年生にわかりやすく伝えよう」

生徒会主催による対面式が行われました。本校の日常生活について、寸劇を取り入れながら1年生にわかりやすく紹介しました。



生徒会役員集合「誇りをもって」

4月は生徒会役員がさまざまな行事の企画・運営に大活躍しました。ミーティングの表情も凛々しいです。



部活動オリエンテーション「志」

各部活動の意義・種類・活動状況等を全校の前で紹介しました。1年生は自分の興味がある部や特性を活かせる部を選びます。



給食ボランティア「後輩のために動き出した学校の“顔”」

3年生各学級の代表が1年生の給食配膳を1週間必要なだけ手伝いました。1年生は自分達だけで配膳できるように先輩からの話を熱心に聞きました。

わが子のあゆみ
2015.7 No.438 初夏号
第67巻1号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ



【ぎふしりつ のりたけしょうがっこう】

岐阜市立則武小学校

- 住所 〒502-0931 岐阜市則武209番地2
- TEL (058)231-5663
- FAX (058)231-5651
- メール gisyo18@noritake-e.gifu-gif.ed.jp
- 児童数 464名



▲校舎



則武小学校校歌

作詞・作曲 森瀬仙一

一、伸びるふるさと 我が町を
かこむ長良と 伊自良川
はるかにつづく こみどりの
峰の小鳥が 歌ってる
みんな元気に いつまでも
なかよくはげめと 歌ってる
そっだ そっだよ がんばろう
則武 則武 則武小学校

二、丸い大きな心の輪
広げてかたく むすび合い
世界の人を友として
平和の鐘を ならそつよ
みんな幸せつかむため
今日もいっしょに ならそつよ
そっだ そっだよ がんばろう
則武 則武 則武小学校



▲真冬の運動会:異学年と対戦する“下向上ドッジボール”

豊かでたくましい子 進んで考える子・思いやりのある子・ねばり強くやりぬく子

学校の教育目標

沿革地域の自然や風土

一八九〇年(明治二十二年)に則武尋常小学校となり、百二十年以上の歴史を誇る岐阜市立則武小学校です。校区は岐阜市北西部に位置し、古くから水はけがよく、適度に砂の混ざった土壌であったことから、現在も大根や枝豆の産地として有名です。

また、学校の西側を環状線が南北に通っています。区画整理の関係から、道路が拡張整備され、住宅や飲食店等が増えています。

このように、環境が大きく変わりつつある則武小学校区。学校や子どもを取り巻く様々な環境の変化や課題を解決するために、学校とPTAだけでなく地域全体で子どもを育む機運が高まっています。



「分かる、できる、もつとやりたい」と学び続ける授業のつくり

誰もが安心して学ぶ環境づくりをすすめるために、取り組んでいることが大きく分けて二つあります。

一つ目は「授業の作法」です。

1 授業の作法

- 1 高学年 相手の目を見つめます
- 2 起立・礼 立ち姿は教室の入れ
- 3 姿勢よく座る 背中・肘が椅子に当たる
- 4 話を聞き流さない 声かけをコントロールする
- 5 分かりやすく話す 短く分かりやすく
- 6 人の機嫌よく話す 笑顔・声かけがよくなる

授業を大切にする
学び合う授業を大切にする

仲間のおさを認め合い、助け合って好ましい人間関係を築く

どれも当たり前前のことはかりですが「返事、起立・礼、姿勢よく座る、場をわかまえる、分かりやすく話す、人の発言を聞く」の六つの視点です。全学級で粘り強く指導するとともに、各教科の学び方の指導を行うことで、自信をもって授業に取り組める子どもを育てています。

二つ目は、児童が「考えたい、調べたい」と切実に思う課題づくりです。驚きが生まれる授業の導入を工夫し、意欲化を図っています。学ぶことが楽しいと思える授業づくりを通して、仲間のよさを認め合い、望ましい人間関係を築くことにつながると考えています。

則武小「3つのじまん」(あいさつタッチ・プラスワン・もくもく掃除)

2 則武小3つのじまん

- 1 あいさつ — 場に応じて相手を思いやる
- 2 プラスワン活動 — よいところ見つけから行動へ
- 3 もくもく掃除 — 協働する仲間を大切に、自分をコントロールする

相手を思いやる、よいと思うことを行動に移す、自らを自制する。

「3つのじまん」の意味や価値を学年の実態に応じて分かりやすく伝え取り組んでいます。

① あいさつタッチ

登校時、同学年や異学年の子とあいさつタッチをします。目と手と心を通い合わせることで、心が爽やかな気持ちになります。休み時間は、学年を超えていっしょに遊ぶ姿を見かけます。

② プラスワン

すてきな児童の姿を昼の放送で紹介しています。地域の方から寄せられる手紙もあり、その日のうちに紹介しています。放送



▲進んであいさつタッチをする高学年

で読み上げると、たくさん拍手が教室に響き渡ります。

③ もくもく掃除

黙って時間いっぱい取り組んでいます。自分の心も合わせて磨いています。

こうした取組みを続けることで、児童が自尊感情を育み、自信と誇りを持ち仲間と生活できる子になると考えています。

運動は学力向上の礎

本校は「春の運動会」と「真冬の運動会」を開催しております。その理由として、児童の体力の向上を目的としているからです。スポーツテストの結果で判断すれば、岐阜市内の小学校の平均レベルの値ですが、運動能力の高い学校は、比較的学力



▲学校運営協議会委員による授業参観



▲地域の人にあこがれをもち、自らの生き方を考える作文

3 目標を決めた体力づくり・外遊びの奨励

どろんどろん運動会 ながよしジャングル

各学年で目標を決め、仲間と協力し、自分から取り組むことで、仲間のおさを認め合い、助け合って好ましい人間関係を築く。

リーダーとしての役割を担い、異学年間で運動すること、自分の力を高めること、運動の楽しさを伝えること、運動の楽しさを伝えること。

感動やあこがれが生まれる活動の充実

4 学校を支える「則武小」コミュニティ・スクール

平成二十五年度から岐阜市教育委員会よりコミュニティ・スクールの指定を受け、学校運営協議会が発足しました。本年度で三年目を迎えます。

「コミュニティ・スクールとは、地域住民、保護者、学校代表が定期的に集まり、学校運営に関わることを始め、学校の喫緊の課題について、知恵を出し合い地道な取り組みを大切にしながら、児童の健全育成に努める組織です。昨年度は学校運営協議会が取り組むべき方向を明確にし、具体的に学校支援推進委員会の三つの部会(学び部会・安心安全部会・地域行事部会)が中心となり教育活動を全面的に支援していただきました。

例えば、学び部会では、六



▲則武小学校キャラクターくすっぴー



▲則武校区全戸に配布し活動の様子を紹介



【かいづしりつ かいさいしょうがっこう】

海津市立海西小学校

●住所 〒503-0303 海津市平田町野寺1023
●TEL (0584)67-3101
●FAX (0584)67-3104
●メール kaisai-sho@city.kaizu.lg.jp
●児童数 112名



▲海西小学校校舎

校歌

海西小学校校歌

作詞 服部達也
補作 服部秋雄
作曲 内本 実

一、まきあがる すなけむり
わきおこる わらい声
のどかな郷の 日やしをあびて
いつもあかるく いつも元気に
こはみんなの のびゆく天地
ああ 海西小学校
二、もりあがる 話し合い
つくりだす よい仲間
長良の水の ささやき聞いて
いつも仲よく いつも手をとり
こはみんなの 楽しい社会
ああ 海西小学校
三、このつたに きみのゆめ
このいろに ぼくのゆめ
すんだ伊吹嶺 遠くに望み
いつも清らに いつもゆたかに
ここにみんなの 花咲く文化
ああ 海西小学校



▲海西小学校 校歌碑

学校の沿革 地域の様子

本校は、明治初年にその前身が創立され、明治三十年に海西尋常小学校に改称され、本年で開校百四十二年を迎える伝統と歴史を有する学校です。

本校のある海津市平田町は、県の最南西部に位置し、木曾三川の揖斐川、長良川に東西をはさまれた「輪中」地帯に位置しています。付近一帯は、町名の由来ともなった平田鞆負(ゆきえ)が指揮を執った薩摩藩による宝曆治水工事や、明治のデレーケによる三川分流工事の現地です。また、町内には「お千代保さん」の名で親しまれる千代保稲荷があり、一年を通じて多くの参拝者が訪れます。

学校の教育目標を「めあてをもってやりぬく子」とし、「さかせよう『花の心』」を合い言葉に、自分の考えをもつ子、やさしい心の子、ねばり強くきたえる子の育成を目指しています。「さかせよう『花の心』」とは、実際の花づくりの目標であると共に、児童一人一人に育てたい心の目標でもあります。

さかせよう『花の心』

本校は、長年FBC(フラワー・クラブ・コンクール)に連続して参加し多くの賞をいただく実績をあげてきています。花を育てることをおしえて、児童一人一人の心に、「思いやりの心、自然に感動し大切に育てる心、進んで働くこととする心」という『花の心』を育てていくことが願いの一つです。また、花づくりは「やさしい心の子」に深く関わり、「豊かな心」を育てることにつながります。しかもその活動は一人では難しく、力を合わせて「協働していく仲間」の存在が必要です。ここにもう一つの『花の心』の願いがあります。そこ



▲一粒一粒細かな種をセルトレイに植える

花を育てる活動をおして子ども達に豊かな『花の心』が育つことを願ってきました。



▲育った苗を花壇に移植する

広げよう『花の心』

「さかせよう『花の心』」の願いを地域に広げようと様々な活動に取り組んでいます。まず、FBCには、校内の花壇だけでなく、校区内の各地域にある地域の方が育てる花壇も参加しており、たくさんの手間暇をかけて育てていただくことで例年多くの賞をいただいています。地域の方や保護者の方に混じって、学校で花を育てた



▲FBCに参加したメイン花壇

経験を生かして児童達も花づくりに参加しています。地域ごとの親子花壇づくりは、本校PTA活動の一つの柱になっています。

次は、花のお届け活動です。校区内一人暮らしのお年寄り、学校周辺の日頃お世話になっている公共施設等に、「『花の心』のお裾分け」として、子ども達が種から育てた季節の花をお届けする訪問活動を定期的にしています。お年寄り宅への花のお届けは、「ふれあい訪問」という名で年に二回行い、花に手紙を添えてお渡ししながら、最近の学校での出来事などを話すミニ交流を行っています。学校近くの道の駅「クレール平田」には、地域学習で立ち

寄った一年生が自分たちで育てた花の種を、来店されたお客さんが自由に持ち帰れるようにお裾分けしてきました。



▲風船に付けて飛ばすメッセージカードに花の種をつける

『花の心』で「なかよし班」活動

市の近在に「花の贈り物」を届けます。県内は高山市の近くまで、遠くは山梨県まで到達したことが、そのお返事で知られています。この風船とは、全校児童はもちろん保護者の方々や近在の保育施設や老人施設の方々も参加しての、楽しみな行事となっています。

本校では、学年を超えた異学年の縦割り集団で行う「なかよし班」による諸活動を大切にしています。この活動をおして、六年生は、五年生以下の学年の手本となるように意識して取り組むことでのリーダー性や思いやりの心の醸成、低学年は、実際に手本を見て一緒に活動することで具体的な理解と内容の習



▲風船に願いを込めて空にはなす

▼花の心のお裾分け 地元の郵便局へ花を届ける



▼花の心のお裾分け いつもお世話になっている 駐在所に花を届ける



縦割り異学年集団によるなかよし班掃除 ▶ 高学年に機の運び方を習う





【なかつがわしりつ かわうえしょうがっこう】

中津川市立川上小学校

●住所 〒509-9201 中津川市川上409番地7
●TEL (0573)74-2313
●FAX (0573)74-2170
●メール kawauees@city.nakatsugawa.gifu.jp
●児童数 44名



▲川上小学校の校舎



川上小学校校歌

作詞 福谷賢道
作曲 上野忠平

一、恵那の山々 花咲きて
小鳥はこずえに虫をとる
いざや わが友 われらまた
学びに 学べよ 学びやに

二、われらの川上 水清く
こあゆも早瀬に岩をこす
いざや わが友 われらまた
励みに 励めよ 今日の日を

三、やがて小鳥は 空にとび
こあゆも 秋には 海につく
いざや わが友 われらまた
築きに 築けよ わがながい



▲他校とのスケート交流



▲親子交流会でのアイスホッケー



▲保護者による読み聞かせ



▲ふれあい講座「絵手紙作り」の様子



▲ふれあい講座「囲碁」の様子

学校の沿革

明治五年の学制発布と同時に開校された「明道義校」が川上小学校の始まりです。その中で、学校給食にまつわる次のような歴史もありました。日本の学校給食は、満身に昼食を食べることのできない子どもたちのために始まったものでしたが、栄養を考え子どもを成長させるための給食を日本で最初に始めたのは川上小学校でした。大正十二年の東京朝日新聞は、「全校の児童に栄養を与えるために給食を実施している小学校がたった一つある。その小学校は岐阜県の一つの僻地、恵那郡川上村の川上尋常高等小学校である。同校は（中略）栄養研究所の指導によって膳立て（みそ汁）を作り、これを村の費用によって三百人の児童全員に与えている。」と伝えています。「栄養研究所の指導」とは、川上村出身の「原徹一」のことで、彼の提唱によって始められ、その後、岐阜県内に広がっていったそうです。昭和四十一年には、当時としては少ない鉄筋コンクリート四階建ての校舎が完成しました。現在は、地域の人口減少が進む中で児童数も減り、

二・三年生と四・五年生が複式学級となつていますが、歴史が伝えるように、地域の方々の想いがたくさん込められている学校です。

学校の教育目標

自分の考えをもち みんなとともに 向上しようとする子
○かながえる子
○あたたかい子
○きたえる子
をめざし、四十四名の児童とその保護者、教職員、そして地域住民が一丸となって様々な活動に取り組んでいます。
教育方針は【夢】（貢献）。
自分の夢、世の中に役立つ夢）をもつことが、不透明な時代を生き抜く力になるとの思いからです。そんな【夢】をもつ子を育てるために、現在取り組んでいる特色ある活動を紹介します。

学校のシンボル

川上小学校のシンボルは、なんとと言っても天然のスケートリンクです。真冬には氷点下十度にもなる土地。農業用のため池を転用したもので三十年以上の歴史があります。



地域の教育力

川上小学校では、PTAや地域の協力による「読み聞かせ」の機会がたくさんあります。まずは、PTA母親委員会の計画によって行われるものです。保護者の中から希望者を募り、学校の「朝読書の時間」に合わせ全学級で行っています。協力した保護者からは、「子ども達が一生懸命聴いてくれて、終



児童の保護者もこのリンクでスケートを楽しんだそうです。

①地域・PTAの協力
スケートリンクの横には、スケート靴の脱ぎ履きができるよう簡単なベンチが設けられています。これは「川上まちづくり協議会」の方がつくってくれました。
氷は、スケートリンク横を



▲ため池を利用して造ったスケートリンク

流れている用水から水を引いて撒き、自然に凍らせています。平日は学校の職員が行っていますが、週末はPTA役員が行っています。地域の方々や保護者と児童との関わりは全校児童の夢を育てる栄養です。



1年生からはじめる▶スケート学習



【あんぱちちようりつ とうりゆうちゅうがっこう】

安八町立登龍中学校

●住所 〒503-0128 安八郡安八町大野333
●TEL (0584)64-2032
●FAX (0584)64-2283
●メール toryu@he.mirai.ne.jp
●児童数 318名



▲登龍中学校校舎

校歌



登龍中学校校歌

作詞 岩田 毅
作曲 川合 公夫

一、若鮎跳り 伊吹嶺を
映して清き 揖斐長良
治水の祖の勲しに
美稲実る 濃尾の地
たたえよ たたえよ 登龍吾等

二、杉木群の 跡どころ
孝子の誉れ 仰ぎ見て
垂水の水の 湧くがごと
自主勇往の 道をゆく
努めよ 努めよ 登龍吾等

三、文化の華の 咲き匂う
新日本の さきがけに
学び進まん 百練の
健児の意気ぞ 今高き
鍛えよ 鍛えよ 登龍吾等



▲達人週間の掃除の姿



▲達人認定書授与の場面

学校の教育目標 他を思いやり 自ら学び 鍛え合い やり切る生徒

本校は昭和二十二年「安八郡名森村牧村学校組合立登龍中学校」として創立されました。その後、町制施行により「安八町立登龍中学校」と改称されました。本年度は町制施行の六十周年を迎えています。

校区は、長良川と揖斐川に挟まれた濃尾平野北西部に位置し、豊かな自然に恵まれているため、県内有数の穀倉地帯となっています。

一方、昭和五十一年の集中豪雨により、長良川堤防が決壊し、校舎が浸水するという大きな自然災害を経験した歴史ももっています。

近辺には百種・千本以上の梅が觀賞できる「百梅園」や天台・プラネタリウム・歴史民俗資料館を備えた「ハートピア安八」などがあり、文化的な環境にも恵まれています。

こうした中、学校の教育目標である「他を思いやり 自ら学び 鍛え合い やり切る生徒」の具現をめざして、特色ある教育活動を推進しています。

沿革 地域の自然や風土

感動を呼ぶ 第九の全校合唱



平成九年、学校創立五十周年を記念して、世界的に親しまれているベートーヴェンの交響曲第九番を全校で合唱することにしました。以降、この第九を全校で合唱することが学校として地域の伝統となり、生徒たちは綿々と受け継がれてきているこの合唱を誇りとしています。

生徒たちの第九との出会いは、小学六年生の三学期、入学説明会のため、登龍中学校を訪れた際にあります。先輩の一年生が、まもなく入学してくる六年生に曲の一部を披露します。一年先輩の中学生が原語であるドイツ語で歌詞を見ることがなく歌いきる姿に圧倒されると同時に私たちもこの曲を歌ってみたいというあこがれを持ちます。

新年度が始まって間もなく、五月に取り組みがスタートします。練習は基本的に全校生徒がパート別に分かれて行います。三年生は二年間、合唱を経験しており、全員がドイツ語で歌うことができます。二、三年生は、先輩の貢祿を上を圖っています。

地域が学校の応援団に 地域の中で、地域と共に歩む学校



伝統ある登龍中学校の生徒のためには、PTAや有志で構成される「おやじの会」等、地域の多くの方が学校教育を支えてくださいます。

例えばPTA活動では、各学級の学級委員が順番に校門に立ち、あいさつ運動を展開しています。これは、生徒たちのあいさつへの意識を高めると同時に登校時の交通マナー等の改善にもつながっています。

また、全校生徒による第九の合唱の前には、PTA合唱をします。生徒たちに負けじとPTAも参加者を募り、夏から合唱練習を行っています。学校の職員と保護者が一緒になって学校を盛り上げていっています。

おやじの会は文字通り、すべて男性からなる組織です。在校生徒の父親だけでなくOBもメンバーとなって、父親

自らが改善 活発な自治活動

本校は、日常生活の改善、向上を目指して、生徒会を中心に様々な取り組みを工夫しながら行っています。

中でも学校の伝統として位置付けているのが「黙動掃除」で

示しながら、一年生に丁寧に基礎を教えています。こうしたパート練習を日常的に繰り返しながら、生徒たちの歌声は確かなものとなっていきます。歌声が大きくなっていくとプロの合唱指導者を招いて、磨きをかけてもらいます。こうしたよいよ当日を迎えます。

近くにある安八町中央公民館の舞台に全校生徒が立ちます。中央には、プロのソリストとオーケストラが控えます。本格的な大合唱の始まりです。生徒たちは、約二十分にわたる大曲を楽譜を見ることなく最後まで歌いきります。会場を埋め尽くす保護者や地域の皆様からの万雷の拍手を浴びながら、歌いきった感動に浸る一時です。涙を流す生徒や聴衆もいます。

第九の合唱は仲間と共にこれだけのことができるんだという貴重な感動体験となり、卒業後も自分そして母校の誇りとして刻まれています。



▲文化祭、全校生徒で第九を合唱



▲親子奉仕活動(おやじの会)



▲文化祭でのPTA合唱



▲地域行事でのボランティア



▲職業講話で講師を



▲体育大会で生徒と一緒に校歌を歌う住民

わが子のあゆみ

2015.7 No.438 初夏号

表紙 岐阜市立岩野田中学校

学校のたからもの 1

岐阜市立則武小学校 / 海津市立海西小学校 / 中津川市立川上小学校 / 安八町立登龍中学校

わが家の宝物 岐阜市立木之本小学校PTA会長 田邊忠久 9

特集 家庭教育への取り組み『みんなで家庭教育!』 11

岐阜県 社会教育文化課

家庭教育応援団!⑩ 安八町立名森小学校 17
郡上市立八幡小学校

シリーズ「療育」⑪ 各務原市立各務原養護学校PTA 19

お弁当の日 岐阜市立長良西小学校PTA 21

保健室ノート 中津川市立坂下中学校養護教諭 寺嶋いずみ 23

私の先生⑩ 瑞浪市立瑞浪小学校 教頭 林 伸彦 25

子育て半生記 平成26年度郡上市立大和中学校PTA会長 森藤啓吉 27

ボランティアニュース [vol.5] 29

瑞穂市立穂積小学校PTA
瑞穂市立生津小学校PTA
瑞穂市立南小学校PTA
瑞穂市立巣南中学校PTA

私が出会った1冊の本【続22】 31

飛騨市立山之村小中学校PTA 母親委員長 石橋美和子
羽島市立中央小学校PTA 井村佳江

わが家の約束 33

可児市立旭小学校PTA 若子真弓
関市立桜ヶ丘中学校PTA 大澤久志

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い
大垣市立安井小学校 2年 小川かれな
岐南町立北小学校 6年 富田幸実
土岐市立肥田中学校 3年 加藤源基

親の願い
下呂市立東第一小学校PTA副会長 亀山靖之
垂井町立北中学校PTA 桐山太輔

教育の窓
多治見市立精華小学校校長 永井 清
美濃加茂市立東中学校教頭 平野秀彦



親子ではてな 40
インフォメーション 41
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42
かみかみごぼうサラダ

ふるさとの伝承 43

美濃市立牧谷小学校

きらり!キッズ! 45

大野町立大野小学校

夢中!熱中!我らが部活 47

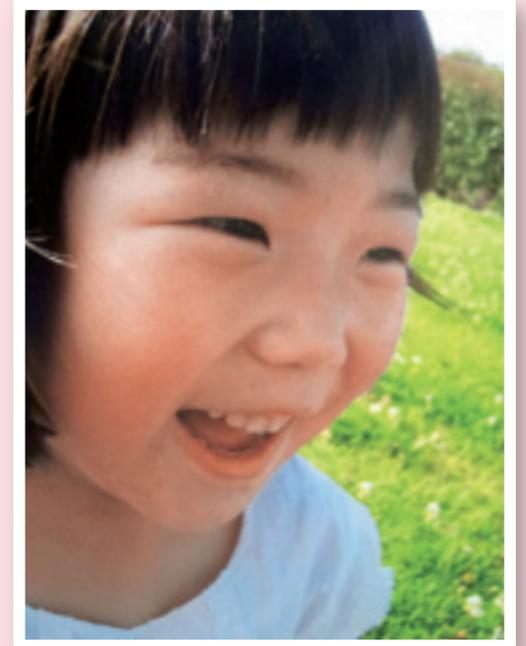
高山市立清見中学校

私たちのPTA 49

御嵩町立上之郷小学校PTA

わが家の宝物

岐阜市立木之本小学校PTA会長 田邊 忠久



わが家の宝物は、子どもの成長です。
現在六年生の娘で来年、卒業です。
早いものですね。
先日、家庭訪問で担任の先生から六年生でがんばりたいこと(こんな自分になりたい)という娘が書いたプリントを見せていただきました。
そこには、「これからは、学校が良くなる事を進んでやってみたいです。」と書いてありました。
自分のことだけではなく、公のために良くなる事を進んでほしいという娘の言葉に、とても嬉しく素晴らしい成長を誇らしく思います。
私も毎朝、校門で見まもり隊として木之本小学校の子どもたちの成長を見守っています。
わが家の宝物は娘の成長です。
私の宝物は木之本小学校の子どもたちの成長です。
私のこの思いが娘に伝わり、成長していく。そんな姿が楽しみです。
そして、宝物を見まもり、育てて頂いたみなさんに感謝です。
ありがとうございます。



みんななで家庭教育！

「岐阜県家庭教育支援条例」が制定されました。

平成二十六年十二月、「岐阜県家庭教育支援条例」が公布・施行されました。この条例は、各家庭が自主的に家庭教育に取り組むことができる環境の整備に努め、また、地域全体で家庭教育を応援する社会的気運を醸成することで、子どもたちの健やかな成長に喜びを実感できる岐阜県の実現をめざします。十二月の定例県議会において全国で四番目に制定されました。この条例の特徴は、わかりにくいと言われる家庭教育の内容を示したこと、三世代同居・近居が多いという岐阜県の特徴を受け、祖父母の役割を明記したこと、既に実施されている「家庭の日」や「早く家庭に帰る日」を「家庭教育を実践する日」に位置付けたことです。

今回は、条例にはどんなことが定められているのか、保護者の皆さんがどんなことに取り組むのかを説明します。



岐阜県家庭教育支援条例には、こんな思いが込められています。

父母その他の保護者は、子どもの教育について第一義的責任を有し、基本的な生活習慣、自立心、自制心、道徳観、礼儀、社会のルールなどを身に付けさせるとともに、心身の調和のとれた発達を図ることが求められています。これらは、愛情による絆で結ばれた家族との触れ合いを通じて、家庭で育まれるものです。

家庭は、教育の原点です。そして、全ての教育の出発点であると言えます。岐阜県では、豊かな自然、歴史、文化や伝統、三世代同居の割合が高いことなどの環境の中で家庭教育が行われてきました。しかし、社会が変化している中、家庭の教育力の低下が指摘されるとともに、育児不安、児童虐待、いじめなどが社会問題となっています。また、他人の子どもを注意できないなど、地域の教育力の低下も指摘されています。

このような中、これまで行われてきた家庭教育を支援するための取組を更に進め、各家庭が改めて家庭教育に対する責任を自覚し、自主的に取り組むとともに、家庭を取り巻く地域、学校等、事業者、行政その他県民皆で家庭教育を支えていくことが必要です。

各家庭が家庭教育に自主的に取り組むことができる環境整備に努めるとともに、家庭教育を地域全体で応援する社会的気運を醸成することで、子どもたちの健やかな成長に喜びを実感できる岐阜県の実現を目指して、この条例を制定します。

さあ、みんなで家庭教育について考え、学びましょう！



この条例において「家庭教育」とは何ですか？

この条例において「家庭教育」とは、保護者とその子どもに対して行う次に掲げる事項等を教え、育むことをいいます。

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 自立心
- ・ 自制心
- ・ 善悪の判断
- ・ 挨拶及び礼儀
- ・ 思いやり
- ・ 命の大切さ
- ・ 家族の大切さ
- ・ 社会のルール

この条例において「子ども」とは、おおむね十八歳以下の人です。

家庭教育に取り組むのは、誰ですか？

子どもの教育については、保護者が第一義的責任を有します。しかし保護者だけが、家庭教育に取り組むものではありません。保護者が基本的な生活習慣、自立心、自制心、道徳観、礼儀、社会のルールなどを自主的に教え、育むことができるよう、社会の全ての構成員が、相互に協力しながら一体的に取り組みます。

● 学校等の役割

保護者、地域住民等と連携して、基本的な生活習慣を身に付けさせ、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めます。学校等は、県や市町村が実施する家庭教育支援施策に協力するよう努めます。

● 祖父母の役割

家庭の教育力の低下を補うため、保護者と協力しながら、家庭教育に積極的に協力するよう努めます。

● 事業者の役割

職業生活と家庭生活との両立が図られるよう雇用環境の整備に努めます。事業者は、県や市町村が実施する家庭教育支援施策に協力するよう努めます。

● 地域住民等の役割

互いに協力し、家庭教育を行うのに必要な地域環境の整備に努めるとともに、地域の歴史、伝統、文化、行事等を通じて、子どもの健全な育成に努めます。地域活動団体は、家庭、学校等と連携し、家庭教育を支援するための取組を積極的に行うよう努めます。

● 保護者の役割

子どもに愛情をもって接し、子どもの基本的な生活習慣の確立、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図り、自らが親として成長していくよう努めます。



県は、どのような取組をしますか？

県は、家庭教育施策を総合的に策定し、実施します。市町村、保護者、地域住民、地域活動団体、学校等、事業者その他の関係者と連携して取り組めます。



【具体的施策】

- 親としての学びを支援する学習の機会の提供
- 親になるための学びの推進
- 保護者、地域住民、学校等の連携による活動の促進
- 人材の養成等
- 相談体制の整備等
- 広報及び啓発
- 団体活動の促進
- 家庭教育を実践する日

親としての学びの場である「家庭教育学級」では、子育てのヒントを学んだり、同じ子育て世代の仲間との交流をしたり、楽しく活

動することができま。講演会、見学会、作品づくり、料理教室等、多くの講座が開催され、参加者が仲良くなれる会でもあります。ぜひ、「家庭教育学級」に参加してください。

「家庭教育を実践する日」はいつですか？

「家庭教育を実践する日」は、毎月第3日曜日（家庭の日）と「8」のつく日（早く家庭に帰る日）です。

家庭の日は、「岐阜県家庭の日を定める条例」（昭和四十二年岐阜県条例十一号）第二條第一項に、早く家庭に帰る日は、「安心して子どもを生み育てることができると岐阜県づくり条例」（平成十九年岐阜県条例第十一号）第六條第三項第一号に定められています。



「家庭教育を実践する日」には何をすればよいのですか？

「話そう！
語ろう！
わが家の約束」運動

☆子どもの発達段階に応じて「わが家の約束」を決め、家族の会話を大切にしましょう。

一、家族で話し合って、「わが家の約束」を決めます。

例・スマートフォンや携帯の使用は、午後十時まで。

・土曜日の昼ごはんは、わたし作りませ。など。

二、実践カード等を使って自分の取組を振り返ります。

三、子どもは、取り組んだ感想を家族に伝えます。

保護者は、子どもへ励ましの言葉を伝えます。

「話そう！語ろう！わが家の約束」運動は、約束を決める過程や実践中の家族の話し合いを大切にする取組です。約束を決めることをきっかけに、子どもと保護者が

一緒に考え、お互いの気持ちを理解し合ったり、よさを認め合ったりして親子の絆を深められることを願っています。

親子で家庭や学校での生活について話し合うことは、子どもの「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に影響するという調査結果も出ています。（キャリア教育・進路指導に関する総合的事態調査第二次報告書「親子の会話の程度別にみた児童の意識（保護者調査・児童調査）」国立教育政策研究所）

また、高校生と保護者の進路に関する意識調査では、進路について保護者と話す高校生の方が、進路意識と将来の自信が高まり、進路について前向きであるという結果が出ています。（第六回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査）

具体的な取組のようになっていますか？

家庭では、家族の一人一人が、協力し合い支え合って生活しています。家族の中でも「行ってきます」「行ってらっしゃい。」とあいさつをしたり、「ありがとう。」と感謝の気持ちを伝えたりすると、気持ちが良いです。手伝いをして褒められたら子どもは喜びますし、保護者も子どもの成長を感じて嬉しくなりますね。取組む内容は、身近なことと考えてみましょう。

あいさつ、早寝・早起き、お手伝い、家庭学習、テレビやゲームの時間、ネット機器の使用等、できることから始めてみましょう。また、下記のようにカード等を活用して取り組んでみましょう。

幼児・小学生の保護者、教育関係者の皆さんへ

- (例)
- 一、家庭教育学級や学級懇談会等で「話そう！語ろう！わが家の約束」を話題にしましょう。
 - 二、取組む方法を確認しましょう。
 - ・いつ取り組むか。
 - ・どのように取り組むか。
 - 三、取り組んだ後、どうするか。
 - 四、家庭において、家族で「わが家の約束」を話し合い、決めましょう。
 - 五、実践カード等を活用し、実践しましょう。
 - 六、「わが家の約束」の実践が終わったら、次の実践を何にするかを話し合います。（同じ約束でもよいです。）

「話そう！語ろう！わが家の約束」実践カード

「家庭教育を実践する日」は毎月第3日曜日と「8」のつく日です。

わが家の約束宣言

わが家の約束を決めましょう。

月	日	実践	実践	実践	実践	実践

子どもからのメッセージ

保護者から子どもへ

☆学校で楽しかったことや がんばったことも 家族に話しましょう。

中学生・高校生の保護者の皆さんへ

- (例)
- 一、子どもと話し合い、「わが家の約束」を決めましょう。
 - 例えば「スマートフォンや携帯電話の使用は、夜10時まで」「家族の一員として、風呂洗いは、僕の仕事」
 - 二、「わが家の約束」宣言を、わが家に掲示しましょう。
 - 三、発達の段階に応じて、自尊心や自立心を尊重しつつ、家族の会話を楽しみましょう。
 - 四、実践後、家族で互いの思いを伝えましょう。
 - 五、「わが家の約束」の実践が終わったら、次の実践を何にするかを話し合います。（同じ約束でもよいです。）



わが家の約束宣言
（例）スマートフォンは、
夜10時まで

実践紹介2 郡上市立八幡小学校

ポイント ○ 価値ある活動を組み合わせて親子の会話やふれあいをより深める

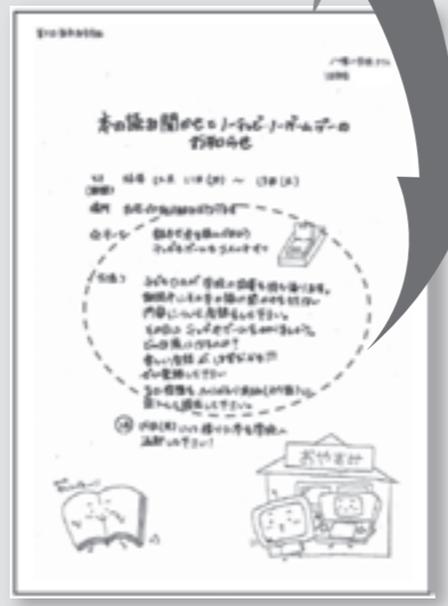
八幡小学校では、子どもが学校で借りた本を家庭で読み聞かせし、その内容について家族で話し合うことで、子どもの気持ちを理解しながら親子の会話がもてるように考えられています。

「読み聞かせ」を軸とした取組

●取組期間:12月11日～13日の3日間
自分の読みたい本を持ち帰った子どもとわが子の好きな本を読み聞かせする親が、楽しい時間をもつことができるように取り組んでいます。

- 各家庭の取組後の感想を紹介します。(一部抜粋)
- ・いつもはあまり本を読まないのですが、親子読書のおかげで、楽しく本を読むことができ、ノーテレビが実行できました。
- ・ノーテレビやノーゲームが案外スムーズにでき、子どもが嬉しそうに親の話をきく姿や、自分からたくさん話す姿を見て、親子で向き合っ会話することの大切さがありました。
- ・「あれしたの?」「まだでしょ。」「早くやって!」という言葉ばかりでなく、親の優しい声で、語り口調で本の読み聞かせをして1日が終わり、子どもが眠るのが大事だと思いました。今後も続けたいです。
- ・忙しさを理由にせず、親子のふれあいの時間をもつことを心がけたいと思いました。

案内には、テーマとともに、方法が分かりやすく書かれており、各家庭で具体的に取組みやすいように配慮されています。



実践紹介1 安八町立名森小学校

ポイント ○ 継続的に取り組み、学習時間や家族との団らんの時間を確保する

名森小学校では、学習時間や運動時間を確保し、心と体の健全な発達を図るために、テレビやゲームに多くの時間を費やす状況を改善する「ノーテレビ・ノーゲームデー」を設け、全家庭の取組を推進しています。「見てはいけない」のではなく、「特にするのではなくただテレビを見ている」といった時間を読書や学習・家族団らんの時間にすることをねらいとしています。

「ノーテレビ・ノーゲームデー」の取組

●取組期間:各月の「0」のつく日にち、または家族で話し合っ決めて決めた日にち
家族で話し合っチャレンジレベルを決め、各家庭で目標をもって取り組んでいます。



- レベル1 食事中はテレビを消す。
- レベル2 夜8時以降は、テレビを見ない、ゲームをしない。
- レベル3 テレビ・ゲームは1時間までにする。
- レベル4 家に帰ってから(夕方以降)テレビを見ない、ゲームをしない。
- レベル5 1日中テレビを見ない・ゲームをしない。

チャレンジレベル

●各家庭の取組の中で、よかったと思う実践を紹介します。

<トランプをした> 子「お父さん、お母さんとトランプをした。」
親「ノーテレビデーの日は、普段の会話が増えました。」

<本を読んだ> 子「本を読んだり、趣味など自分の楽しいことをしたりできた。」
親「オセロやトランプなど、頭を使って知恵をつけるのも楽しいよ。」

<部屋の掃除をした> 子「自分の部屋の掃除をしました。」
親「テレビをつけないと、家族とのコミュニケーションが増えました。」

お気軽にご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

岐阜県教育事務所 0577-331111
西濃教育事務所 0577-331111
美濃教育事務所 0577-331111
可茂教育事務所 0577-331111
東濃教育事務所 0577-331111
飛騨教育事務所 0577-331111

○家族の時間を楽しむ
「行ってきます。」元気に
出かけて行った子ども達は、
学校での一日の出来事をたく
さん持ち帰ります。友達と遊
んだこと、できるよになっ
たこと、ほめられたことな
ど、話したいことがいっぱい
あります。そんな子ども達の
話をじっくり聞く時間を作る
ことは、難しいことかもしれ
ませんが、今回紹介した2校
のように、この日はコミュニ
ケーションを大切にしようと
いう日を決めて、月に1回で
も取り組んでみてはどうで
しょう。
保護者も子どもも親子のコ
ミュニケーションが意識でき
るように工夫された「在宅取
組」が増え、どの家庭でも楽
しい会話が弾むようになると
いいですね。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！
ぜひご覧ください！！

岐阜県 家庭教育学級 検索

—掲載内容—
平成23～26年度家庭教育学級の実践
・「みんなで子育て」家庭教育学級運営マニュアル
・「みんなで子育てⅡ」家庭教育プログラム(乳幼児期編)
・「みんなで子育てⅢ」家庭教育プログラム(小・中学校編)



1 当校の概要

当校は、市内及び近隣の中学校の特別支援学級等を卒業した知的障がいのある生徒を対象とする高等部単独の特別支援学校です。昭和六十一年に開校してから三十年目を迎え、四百四十九名の卒業生が社会に巣立ちました。校舎は学びの森に隣接した趣のある木造平屋と芝生のグラウンドが特徴です。

当校の教育目標は、『社会生活に適応し、社会の一員として能力・特性

に応じた自立ができるよう、心身共に調和のとれた人間を形成する』です。現在二学年が三学級二十二名、二学年が二学級十四名、三学年が二学級十五名、合計五十一名の生徒が教科・領域等の学習を合わせた指導形態である「生活単元学習」と「作業学習」等を中心に学習をしています。

2 PTA組織

PTA本部役員七名(会長一名、副会長二名、書記一名、会計一名、会計監査二名)と各学年より選出された学年長三名、また、五つの各専門委員会(学級委員会、進路委員会、厚生委員会、振興委員会、広報委員会)からなる実行委員会が中心となり、役割分担を行ってPTA活動を運営しています。

3 親子のコミュニケーションに係る主な活動

(1) 挨拶と登校(交通安全)指導
挨拶はコミュニケーションの基本であり、当校は「先にする 微笑みで



する 元氣よくする」の挨拶三原則を大切にし、二、三学期の始業式を中心に生徒、保護者、職員が近隣の交差点に立ち、地域の方々にも挨拶をします。併せて登校指導も実施しています。また、終了後、校内の清掃活動も一緒にを行います。

(2) 親子職場見学

保護者が研修する職場見学以外に夏季休業中に親子職場見学を実施しています。希望参加による見学会ですが、大型バスを二台利用して県内の障がい者雇用を積極的に行う事業所や福祉施設等を親子で見学をします。卒業生の働く姿や先輩の

(3) 進路懇話会(PTフォーラム)
当校の生徒は年二回、合計四週間の校内作業実習、現場実習を実施しています。二、三年生が行う現場実習後には報告会があり、生徒は全員、実習の成果と課題を報告します。全生徒や保護者、職員も参観し、皆の前で話す体験は、就労前の面接や就労後の報告、連絡、相談に役立っています。報告後には質疑応答もあり、返事の仕方も上達します。
現場実習報告会後には保護者による進路懇話会が実施され、職員も入って進路についての悩みや相談、情報交換、アドバイスなどを行っていきます。



(4) 文化祭PTAバザー



全会員で食品バザー、日用品バザーを実施しています。地域の方々にもポスターの掲示やチラシの配布で案内し、多くの方に来校していただいています。生徒による作業製品の販売もあり、活気あるバザーになっています。交流校である各務原西高等学校の生徒も来校し、一緒に作業製品製作体験や製品販売等を行い、交流を深めています。当日に同窓会も実施し、先輩方も多く来校します。
(5) ウィークエンド事業
① ボウリング大会 ② 日帰りバス旅行(親子体験を必ず入れる)余暇を有効に利用し、会員同士の親睦を

図る活動や親子で行う体験活動を年二回実施しています。保護者の参加率の高い日曜日を利用し、ゲームや旅行を通して会員相互の親睦とコミュニケーションを深めています。ボウリング大会では、ストライクやスベアが取れるとハイタッチをして皆が楽しみ、話が盛り上がります。また参加賞や入賞者に賞品があるなど気持ちにも力が入ります。日帰りバス旅行では、これまで親子でそば打ち体験やソーセイジ作り、焼き蒲鉾作りなどをしました。初めて体験をする方が殆どで、親子一緒に楽しく活動しています。「食べる」という活動は特に話が盛り上がるようで、親睦を深めながら、親子共通の話題作り



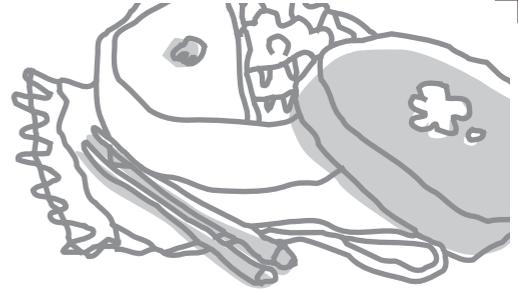
4 まとめ

コミュニケーションによる人間関係の広がり、子どもの社会参加や自立を考えるうえでとても大切な要素だと思います。コミュニケーションによるふれあいの中から信頼関係が生まれ、個性を認め合い、互いに大切な存在になることが豊かな人生に繋がっていくと思っています。障がいがあるなしに関係なく、社会のルールを学び、当校の校訓のように「強く(自立)、明るく(明朗)、睦まじく(協調)」生活ができるように一緒に楽しく学んでいきたいと思っています。



話を聞くことができるとも参考になり、親子の進路への話題も広がります。





お弁当の日

岐阜市立長良西小学校PTA

「食べる」との大切さを 子どもたちに伝えていくこと

●「弁当の日」の活動を行って

私たち長良西小学校PTAは、「食べることの大切さ」を子どもたちに伝えていくことに取り組んでいます。平成二十二年度より、全校児童がお弁当作りに関わる活動を通じて、食の大切さに気付くとともに、家族の絆を深めることを目的に「夢のお弁当計画」と称した取組をスタートしました。この取組は「弁当の日」を設定して、親子で一緒に作ったお弁当を学校に持ってきてもらうことに加え、ワークシートを配布し、実践後に感想などを記入していただくという形で行いました。具体的な取組としては、朝のお弁当作りの時間を確保するために、当日の登校は十五分遅らせ、地域の朝の旗当番は学校の先生にお願いして実施しました。

いつもの給食ではなく、自分たちで作ったお弁当を見せ合いながら食事をする体験は、子どもたちにとって、より「食べる」ことの意味合いを考えてもらうきっかけになりました。実施後に行ったアンケートでは、概ね好評をいただきましたが、朝の時間に一緒にお弁当を作ることが難しい、ゆっくり時間をかけて親子で食事作りをしたい等、形を変えての実施を希望する意見が多く寄せられました。

●長良西小学校独自の取組み（食育活動について）

これを受けて、平成二十三年度は、時間を多く取ることができ冬休みを利用して、家庭で親子が取り組むことができる「料理作り」に挑戦することにし、ネーミングを「レッツ、トライ、クッキング」と改めました。

この取組は、食の大切さに気付き、家族の絆を深めると

いう当初の目的について一定の成果を得ることができましたが、反面、ワークシートに料理の絵や写真を記入するため、料理作りが見せる作品作りに偏ってしまうという課題が残りました。

この年、PTAで何度か食育に関する講演を聞きに行く機会を設け、「食育」の原点に戻り、いろいろと議論し合いました。その結果、見せるためではなく、食材に対する感謝、作ってくれた人たちに对する感謝、全てのことへの感謝の気持ちを込めた、「いただきます」というネーミングに変更し、翌年以降の取組を継続していくことになりました。

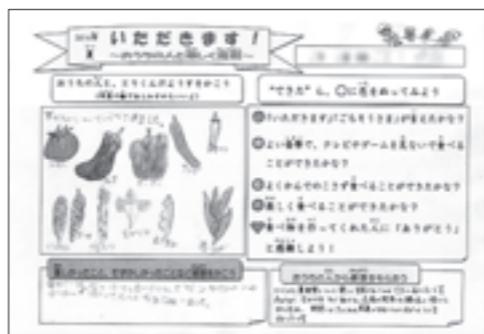
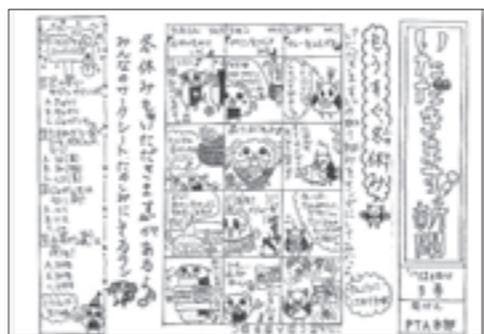
●感謝の心を育む取組へ

「いただきます！」に生まれ変わった平成二十四年度より、ワークシートにテーマを設けて、それまでの「料理を作る」とを通じての学びから、より視野を広げて「食事や食材により深い関心をもってもらい、感謝の心を育む」形の取組へと転換し、夏休みと冬休みに家庭で取り組む内容としました。

平成二十四年度は「食材の産地」、平成二十五年度は「栄養のバランス」をテーマとして、子どもたちが料理したり、買ったり、収穫したりして日々触れる食材についてより深く知り、学んでもらうことを目的に取り組みました。

平成二十六年度は、子どもたちが食に対して感謝の気持ちが弱い・偏食がある・食事のマナーが身につけていないという課題に対応するため、「感謝して食べる」と「食事のマナー」をテーマに設定し、一～六年生までの児童だれもが取り組みやすく、達成感を得やすい内容としました。

その結果、「料理を作る」と「食べ方」ではなく、「買い物に行くこと」や「食材を育て収穫すること」「配膳や後片づけ」また「料理や食材を調べ研究すること」などさまざまな切り口から「感謝」の気持ちを育んでもらうことができました。また、平成二十五年度からは、子どもや保護者に、もっと



「食べること」に興味をもってもらい、より親しみを持ってもらえるように、執行部からもアクションを起こし、「いただきます！」新聞を創刊しました。

この「いただきます！」新聞では、毎回キャラクターたちが、ワークシートの紹介や食の情報、マンガで「いただきます！」のいろいろな取組み方を発信しています。

●課題と今後の計画

「いただきます！」活動では、毎年より良い活動にしているために、活動の終了後に保護者を対象としたアンケートを実施しております。その結果、過半数の方に「いただきます！」の取組を続けてほしいとの意見をいただいております。その理由として「子どもが楽しんで取り組んでいるから」や「食べ物に対して感謝する気持ちが育つから」との回答が多く寄せられました。また、各家庭の中で子どもの成長を感じたり、新しい一面を発見することに繋がっているという意見もありました。

「食育」の本質は、食べることに「感謝」、作ってくれた人々に「感謝」という気持ちを育てていくことにあると私たちは考えています。本年度も、これまでの活動を踏まえ、より子どもたちの心に響くような活動を継続してまいります。



保健室ノート

●中津川市立坂下中学校養護教諭
寺嶋 いずみ

超升先輩 ～生徒へ養護教諭として伝えたいこと～

一、はじめに

坂下中学校に赴任し三年目を迎えます。山々に囲まれ川上川が近くを流れる自然豊かな地域で、保健室の窓からは、私にとって小さい頃から見続けてきた恵那山が遠くに見え、私を見守ってくれ温かさを感じます。

赴任当時は小学校勤務からのいきなり中学校への転勤で動揺はありましたが、この学校で生徒のために一生懸命に働こうと心に決めて着任しました。

この坂下の地域では、十年前に長野県と合併したことにより山口中、坂下中、川上中の中学校が統合し坂下中学校としてスタートしています。地域の方の多くの思いが集まり、希望あふれる学校としてスタートして十年が経ちました。そして昨年度、統合十年目を迎えたことを機に学校長の指導で「新生坂下中学校」として新たな一歩を踏み出しています。



そのために生徒は、一年に一度、坂下中学校出身者の講話を聞く「先輩講演会」や、学期に一回、生徒集会で生徒や教師による「道程発表（自分の生き方を発表する）」が行われ、人の生き方を見つめ、学び、自分の生活や卒業後の人生に生かす活動を行っています。

着任した日に校内を回った時、ある掲示に目がいきましました。そこには力強く「超升先輩」という四文字が書かれていました。何これ？四文字熟語？読み方は？意味は？それこれと考えているうちに、色々な場所にあること、色々な形（パソコン文字・筆文字・板のくり抜き）で掲示されていることから、本校の校訓だと気付きました。

『超升先輩』とは、先輩から見習い学んだことを生かし先輩に近づき、その上を目指し向上していけるように努力することです。

からのメッセージを読んだり、生徒に自身の体験を語る事で、自分の生きる道を考えさせました。

保護者からの手紙を代読し、続けて私の経験してきた母親としての思いを語りました。

私は、一人目を出産したとき、微弱陣痛で出産に三日かかり苦しかったこと、近くでオロオロしていた主人が、生まれた時「赤ちゃんが生まれて、同時にお父さんお母さんも誕生したね」と手を取って大喜びしたこと。この子を守っていかなくてはいけないと感じ自覚したこと。元気に生まれてきてくれたことすべてに感謝したこと。そして、生徒全員のお父さんお母さんも同じ思いで出産を迎えたこと。みんなは祝福されて生まれてきた大切な子たちであると話しました。

生徒たちは、真剣に話に聞き入り、何かを感じ取ってくれた様でした。これは、生徒にとつての『超升先輩』の一つになるよう私自身が人生の先輩として生徒に話したことです。

三、おわりに

日々の実践の中で私が、自分の学んできたことを伝えることで、生徒が生きていく上で大切な自己決定の援助になり、よりよい方向に進んで行く手助けができればよいと考えています。

保護者の皆様にも、人生の先輩として我が子へ自分が経験したことや生き方を



語って欲しいと思っています。そして、子どもたちが『超升先輩』できるように、夢や目標を応援し、生きる喜びを教えてあげて欲しいと思います。

今日も保健室では、一人ひとりの個性を大切に生徒に対応をしながら、語り合い、「今日もいいこといっぱいあるよ」と笑顔で送り出しています。

以前勤務した中学校で、新任の男性教諭に出会いました。彼の教訓の一つに『煮えガエルにならないこと』だと聞きました。この言葉の意味は、煮えたぎった湯にカエルを入れるとびっくりして湯から飛び出して逃げて火傷はするが死にはしない。しかし、水の中にカエルを入れてゆっくり加熱をするとカエルは気付かずそのまま煮えて死んでしまうというものです。つまり自分に負荷を与えず、嫌なことは逃げ、ぬるま湯の生活を送ってしまうと大変なことになるといことです。私もこの話には共感しました。

二、私の『超升先輩』実践
①保健室で、生徒が前向きに希望を持つて生活できるようにいろいろ話をすること

以前勤務した中学校で、新任の男性教諭に出会いました。彼の教訓の一つに『煮えガエルにならないこと』だと聞きました。この言葉の意味は、煮えたぎった湯にカエルを入れるとびっくりして湯から飛び出して逃げて火傷はするが死にはしない。しかし、水の中にカエルを入れてゆっくり加熱をするとカエルは気付かずそのまま煮えて死んでしまうというものです。つまり自分に負荷を与えず、嫌なことは逃げ、ぬるま湯の生活を送ってしまうと大変なことになるといことです。私もこの話には共感しました。

●思春期教室の内容

- ・自分が生まれてきたルーツを知る
- ・胎児の成長と母胎の変化が分かる
- ・中学生の時期の体づくり、習慣づくりの大切さが分かる
- ・家族の人は妊娠中の母親をどのように支えることができるのか分かる
- ・自分が生まれ、守られて、大切に育ったことを感じることができる

生徒の保健室の来室理由は多種多様です。簡単な怪我や病気程度であれば、一、二日位で来室しなくなりません。しかし、何か心に悩みや不安があったり、理由の見当たらない気力のなさからの来室は少なくありません。「何となく来た。」という生徒も中学校の保健室ではありがちな光景です。そんなとき、生徒に「煮えガエルにならないこと」を語ります。不思議な顔をする生徒もいますが、大半は、その意味が分かると、前向きに生活しようという願いをもち、自分はどういうに生きていくのか考えてくれます。この話は、気力が落ち込んだ生徒に生活意欲を持たせるのに効果的だと思っています。

私が学んだことを、担任ではない立場から大切にすると良いことを語ったことが、生徒に役立ったのです。これは、私にとつての『超升先輩』の実践の一つとなりました。

②思春期教室で、卒業を目前にした三年生に命の大切さを知ってもらうこと

保健室をお招きして思春期教室を行いました。これは、これから自分たちがどのように生きていくかについて考え、将来子どもを持って父母になるために今できること、気を付けなければならないことを考え、心も体も成長できるように、自分の命のルーツを知り、自分たちはどこからやってきたかを学びました。

家族の支えによって、自分が大切に育てられたことを感じ取らせるために、親

先生の言葉

瑞浪市立瑞浪小学校 教頭

林 伸彦

今年で五十歳を迎えました。学生時代から今日までにたくさんの先生方と出会ってきました。そして、それぞれのお話や振る舞いからいろいろなことを学ばせていただいたことを改めて感じます。今回は、先生方からいただいた数々の言葉から特に印象に残っている言葉を二つ紹介します。

時間をかけてゆっくりと伝わった言葉

私には三十年以上かけてじんわり伝わってきた言葉があります。それは、「WHYの三文字」という言葉です。自分が中学生の頃に担任をしていただいた先生から言われた言葉です。その先生は、朝の会や帰りの会、学活などでいつも熱くいろいろなことを語ってくださいました。先生のお話は多方面にわたり、内容も中学生にとっては少々難しいものもあったように記憶しています。でも大人への憧れをもつ年頃でしたからその難しさも尊敬の対象でした。そして、その憧れや尊敬のおかげもあって、その先生が担任される学級はいつもよくまとまり、校内のキャンペーンやコンクールでは負け知らずの勝ち組でした。たくさんの充実感や達成感を味わわせていただいたことを今もよく覚えています。

その先生がよく口にしてみえたのが先ほどの「WHYの三文字」でした。当時は何を言われているのかよくわかりませんでした。辞書で「WHY」の意味を調べてもピンと来ません、私にとっては「WHAT?」でした。周囲の仲間は呪文のように「WHYの三文字」と言っていました。本当に意味がわかっていたのかは定かではありません。確かめることも憚られる雰囲気もありました。結局、意味を確かめることなく、「お前はまだまだや、大事なことがわかってない。」と言われたまま卒業してしまいました。でも頭の片隅にはWHYの三文字」がいつもどこかに残っていました。

それから月日が流れ、「そういえば『WHYの三文字』って、物事の本質を大切にしろということだったのかなあ。」と思うようになったのは、自分も先生と同じ教員になってから十年以上がたち、「事の本質を見極めてチャレンジできる人に育てたい。」と思うようになってからです。その先生にお会いして確かめたわけではないので真意のほどはわかりませんが、今は自分勝手に納得しています。中学生の私にとっては難しい言葉でしたが問い続けられるよい言葉をいただけたと感謝しています。

目から鱗、「はっ」と思わされた言葉

これも「WHYの三文字」をくださった先生からいただいた言葉です。合唱の学年コンクールに向けて学級で取り組んでいた時でした。パート間のバランスが悪く、合唱としてなかなかまとまっていなかったのが問題になっていました。当時、学級委員をしていた自分はパートリーダーと相談をしてパート練習の強化や罰則を作るなどして問題点をつぶす対策を考えました。そして先生に話し合いの結果を報告すると、「それでお前は何をやるの。できていない子に命令するだけなの。自分ができることは考えないの。」と言われました。これを言われた時には、「なんで僕が怒られるの」という思いでした。が、とりあえず言われたことをやってみました。練習に遅れてくる子を呼びに行ったり、音取り練習に付き合ったり。素直に聞いてやってみると目から鱗でした。問題になっていた仲間の中にはやらないのではなく、やりたくてもできなかった仲間がいたということがわかったのです。

他にもいろいろな先生方から素敵な言葉をたくさんいただきました。自分がそうであったように言葉は受け手しだいです。でも、自分の言葉を聞いてくれる人がいるならば素直に伝えたい、そして少しでも役に立つことがあれば幸せと思いつつ日々、子どもたちと接していきたいと思っています。



PN. 詩織 (不破郡)



PN. ののだ (岐阜市)

QUESTION 1

冷蔵庫の中にいる動物は？



出題・三宅 花 (美濃加茂市)
(答えは41ページ)

恩がえし

昨年一月のことです。勤め先の人事異動により単身赴任を命じられ、十年ぶりに雪景色が美しい白川郷を懐かしんでいた直後でした。PTA役員選考会議なるものが開催され、大役を引き受けてしまったのです。元来「なんともかなるさ」が持論の私ですが、「さすが今回は…」といった心境でした。案の定、会議への出席もままならず、執行部の皆さんや先生方にご迷惑をおかけするなど、力不足を痛感した一年間でしたが、私にとつては非常に貴重な経験となり何より子育てというものを真面目に考える良い機会となったことに感謝しております。

みなさんは「郡上」というところをご存知でしょうか？

春は山菜。夏は鮎。秋は果物。冬は漬物。食べ物がおいしいんです…。

いやいや、他にもたくさんあるんです。徹夜踊りで有名な「郡上おどり」やオリンピック選手を輩出したスキー場があるのも「郡上」です。

郡上市は岐阜県のほぼ真ん中に位置し、大日岳を源流とする長良川上流部の自然豊かな土地であり、「マック」も「スタバ」もありませんが本当にいいところなんです。

四季折々に楽しめる、私を育ててくれた「郡上」へ是非ともお越しください。

私は中学卒業後、地元を離れていたせいかな郡上への愛着は強く、大学を卒業後は郡上市に戻りたいと考えるようになり、地元の金融機関に就職しました。

少年指導とともに妻がお嫁に来てくれたから、まもなく二十年目の節目を迎えようとしています。娘が生まれ、二人の息子にも恵まれ、人並みに父親にさせていただきましたが、これまで子どもや家庭のことは妻に任せっきりにしてきたため、本誌への寄稿も妻にはおこがましく話しておりません。子育てに真面目に取り組んでこなかったツケなのか、酒飲みの加齢臭漂う父親の立場は年々下位に後退し、もはや私を「うざい」という言葉で一蹴する子どもたちではあります。幸い三人の子どもたちも剣道という共通の話題を通じて、時には指導者としてまた父親として、折りに触れ子どもたちに関わってこられたのは本当に貴重な時間でした。

生意気な我が子たちではありますが、大人になった時これまで地域の大人や友達の親、学校や部活動の先生や先輩、社会人となってからも会社の上司や先輩など、たくさんの人に育てていただいているこ

小・中学校時代の同級生のほとんどは高校までを地元で過ごし、高校卒業後に進学や就職という形で都へ出て行くのが主流であったため、私が郡上に帰ってきたときには同級生たちは地元におらず、暇をもてあましておりました。

そんな時に私が子どものお世話になつていたスポーツ少年団の先輩から、剣道の指導を手伝ってほしいとの誘いをいただいたことをきっかけに、少年剣道の指導に携わるようになりました。特に目立った成績を残した選手だったわけではなく、ただ剣道を続けていただけの私ですので、今でも子どもたちに何かを伝えられているのだろうかと自問する日々を送っておりますが、最近とても嬉しいことがあります。

数年前に卒団した教え子が帰郷し、子どもたちの指導に加わってくれるようになったのです。若かりし私と同様に、まだまだフラフラした今どきの若者ではありますが、高校時代の恩師に「ちゃんと思返しせなあかん」と言われ、仕事の合間を縫って足を運んでくれるようになったのです。遊びたい盛りで友達との予定もあるところを、時間を割いて子どものもとに来てくれる思いが嬉しく、胸が熱くなると同時に、彼の健やかな成長を実感した瞬間でした。

少年指導に携わるようになり二十数年の歳月が経過し、子どもたちに剣道のすばらしさを伝えることができていくのかは別として、今では成長した教え子たちと竹刀を交えることが一番の楽しみとなっております。

とを忘れず、心からの感謝ができる人間に成長してくれることを願うばかりです。

子育てはもうすぐ終盤戦を迎え、少年指導もいつまで続けることができるかわかりませんが、少年団の指導に来てくれる教え子のように、いつか何らかの形で育ててくれた社会に恩返ししたいと考えてくれるような、子育てや少年指導ができればいいなど考えている今日この頃です。



ボランティアニュース

vol.5

親子でスッキリ！夏の奉仕作業

瑞穂市立穂積小学校PTA

穂積小学校は、瑞穂市の中心部にあり、児童数は七百七十七人、今年で創立百四十二年を迎える歴史と伝統のある学校です。

毎年、夏休みの最終日曜日にはPTAが主催し、児童と先生と保護者で学校の清掃活動を実施しています。

各教室をはじめ、特別教室、廊下、児童玄関の下駄箱など、各クラスで



分担し、清掃します。子どもたちは、ほうきやぞうきんに加え、小さくされたメラニンスポンジでゴシゴシと小さな汚れも落とします。お父さんやお母さんは、子どもたちでは難しい高い所をはしごに上ってきれいにしていきます。

近年はお父さん方の参加も多くなり、グラウンドの側溝掃除にも活躍しています。



「わあーきれい、ピカピカだね」「気持ちがいいね」そんな会話をしながら、親子で汗をながし、きれいになった教室に喜びを感じ、心もすっきりとして、九月から始まる新学期にむけ、気持ちを整える一日となっています。

親と子が共に働き、汗を流す親子奉仕活動

瑞穂市立生津小学校PTA

まだまだ残暑厳しい八月の終わりが、生津小学校ではボランティア活動の環として、親子奉仕活動を行います。

校庭には子どもたちが、はだしでかけ回ることが出来る芝生が植えられていて、当日は早朝から父親委員による草刈りが行われます。八時から九時ごろまでの比較的過ごしやすい時間帯に、水筒を持参し、親子で校庭やバックヤードの草むしりをします。



暑さや疲れもあり作業を続けるのが嫌になってしまう子もいるのですが、親が黙々と作業をしている姿を見て自然と作業に戻っていきます。低学年の子どもたちも、自分たちができる作業を見つけて参加していきます。

「親の背を見て子は育つ」といいます。親が真剣に取り組むことで、そこから子どもたちが学ぶことがあります。この奉仕活動は学び舎である学

地域が一体となって子どもたちの安全を守る

瑞穂市立南小学校PTA

平成十七年三月からスタートした安全パトロールボランティアは、百五十名余りの保護者や地域の方に参加していただいております。今日まで活動を継続してきました。

毎朝、登校時にライトイエローのジャンパーを着たボランティアの方が、危険箇所子どもたちの横断の様子を見届けたり、通学路を子どもたちに付き添って登校していただいたりしています。

「クルマに気を付けてね。」「元氣よくあいさつできるね。」「などと積極的に子どもたちに声をかけてもらい、子どもたちも爽やかな声で「おはようございます。」「ありがとうございます。」とボランティアの方に挨拶を返すことが少しずつできるようになってきました。

また、PTAの市への改善要望に対して地域の方よりアドバイスもいただき、自動車用カーブミラーの下に歩行者用カーブミラーを増設するこ



ともできました。

さらに、地域が一体となって子どもたちの安全を守っていただけるよう、本年度は、老人会の皆さんにもボランティア募集を呼びかけ、より安全な環境づくりをめざしています。

生徒が躍動する地域ボランティア活動を支えて

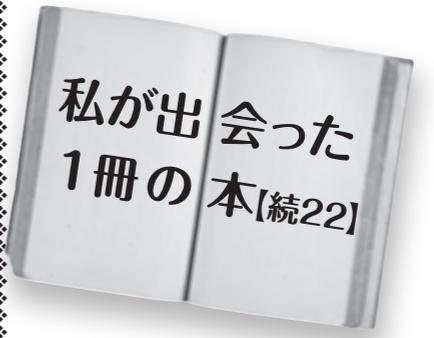
瑞穂市立南中学校PTA

本校PTAは、校外生活委員会を中心に、地元地域の方のご協力を得ながら活動を推進しています。その主な活動内容は、地域ボランティア活動、夏フェスタ、ラジオ体操、リサイクル活動等があります。どの活動も子どもたちの居住地域において実施されており、特に、地域ボランティア活動では、学校・地域と協働しながら、平成十七年度に、生徒のボランティア活動精神を高めるために「全校ボランティア活動」として、全校生徒による校舎周辺等の清掃活動が始まりました。翌年度には、この活動をさらに発展させ、地域へ出て活動する「地域ボランティア活動」が始まりました。

この活動の目的は、自分たちの住む地域を自分たちで美しくする。日頃支えてくださっている地域の方に感謝し役立つ活動を行うことです。

これからも、地元中学生が様々な地域活動に参加することで、地域全体のボランティア意識が高まることを





子どもへのまなざし
佐々木正美 著
福音館書店

飛騨市立山之内村小中学校PTA
母親委員長 石橋 美和子



私がこの本に出会ったのは長男が四歳、次男が二歳の頃でした。その頃、私はお義母さんの介護をしていました。お義母さんは階段から落ちるといふ事故に遭い、頭部を損傷したため、

記憶障害と視力・聴力の低下、さらに体の麻痺が残ってしまったのです。

とにかく毎日怒ってばかりいました。子どもって、余裕のない時ほどいたずらをして困らせるものです。私の言うことなんてちっとも聞かない。毎日日本当に大変なのに、少しは私の気持ちも考えてくれたらと怒りはどんどんふくらんでとどまることを知らず、怒鳴り散らして後で落ち込む毎日でした。特に兄弟げんかはしょっちゅうで、夕飯の準備など落ち着いて出来ないくらいでした。どうしたら子どもと楽しく過ごせるようになるのか、悩んでいたときに出会ったのがこの本です。

特に、「ただ温かなまなざしで子どもを見ていてあげる」と「が心に残りました。」

確かに自分の事しか考えていなかったな、自分の身の不幸ばかり。でもそれだけで果たして何が変わるのだろうか。あれもこれもやらなくてはとあせるのはやめにしてじっと子どもたちを観察していると、徐々に色々なことが見えてきました。今、子どもたちが何を考えているのか、なんであんなこ

とをするのか。いつも次男を泣かせる長男にも、ちゃんと理由があったのです。次男にだって兄貴に負けたくない意地があったのです。別に私を困らせようと二人して大騒ぎしていたわけではなかった、ということなんです。そして自分にも子ども時代はあって、やはり兄弟げんかもしていたし、出しっぱなしで片づけられないこともしょっちゅうで。

それからは元気が良すぎることどもたちが、健康な証拠でありがたいと思えるようになりました。この本に出会えたお陰で子育てを楽しめる心の余裕が少しできたのでした。

今でも理想通りにはいかないことばかりですが、日々子どもと成長していったらいいな、と思います。

たくさん育児書を読みました。子育てのテクニクや体験談が多く、この本のように根本的でとても大切なことが分かります。よく書かれています本はなかなかありません。私がこの本から学んだことは大変多く、佐々木先生の講演会まで聞きにいきましたが、十四年経った今でもときどき読み直しています。何年も

前に書かれた本ですがとても参考になります。

近頃子どもがらみの痛ましいニュースが増えましたが、本に書いてある通りになってきたな、という感じですね。

今では長男も十八歳、六人兄弟のお兄ちゃんです。高校生になった次男と兄弟げんかをすることもすっかりなくなりました。きつとお義母さんも天国から、そんな孫たちの姿を温かなまなざしで見守ってくれているのではないのでしょうか。

霧のむこうのふしぎな町
柏葉幸子 著
講談社

羽島市立中央小学校PTA
井村 佳江



私がこの本に出会ったのは小学一年生の時でした。学校の図

キドキとワクワクが止まりませんでした。

魔法使いの子孫は言います。「欠点のない人間ほどつまらねえものもねえんださ。」と。大切なものは、完璧にこなすことではなく、壁にぶつかったときにいかに乗り越えていくかということだと思えます。そのため、自分で考えて判断し、納得のいくまで行動していくことに値打ちがあるのだと思うのです。ちょうど、学校でも「自分で考えて判断して行動すること」を大切にしてください。大切な生き方は、今も昔も変わらないのだと改めて思いました。

書館で見つけ、卒業まで何十回と読みました。この本は、一九七五年に第一版が出版された古い本ですが、新書や単行本へ何度も姿を変えて出版され続けています。この本が、宮崎駿アニメ「千と千尋の神隠し」のベースになり注目を集めたことにご存知かと思えます。また、「耳をすませば」の一シーンの、図書館で男の子が持っている本がこの本である事も……。

なんかするって言ったね？」と立て続けに言われ、リナは涙が出そうになります。さらに、生活費を稼ぐように言われます。持って来たお小遣いは「自分で稼いだお金なんだろうね。」と念を押されます。「働かざる者食うべからず。自分の食いぶりは自分で働いて稼ぐ。だから、誰にも世話なんて掛けないのだ。」とも。自分は何もできないから働くことができないと言いうリナに、「手があって、足があって、目も鼻も耳も、見たところ異常はなさそうじゃないか。」と言うピコットばあさん。リナは逃げ出したくてたまりません。そんなリナに、「誰が、何もできないって言ったんだい？」と。

のです。何もやっていないのに、自分ではできないと決めつけていたことに。自分の可能性を、リナ自身が信じていなかったことに。それからリナは、自分で考えて、自分にできることにどんな取り組んでいきます。そうすることで、周りから認められるだけでなく、自分に自信がわいてくるのです。この町で出会う不思議な人達との不思議な出来事を通して、リナは自分というものに気付いていきます。他者の思いを大切にしながら、いかに関わるかを考え、大人へ近づいてゆくのです。

私は何度も読んだのは、そんなリナと一緒に、霧の谷でいろいろ考えていくことができたからだと思えます。読み返すたびに、新しい思いが発見でき、ド



PN. みや (本薬市)



PN. アルバカ (関市)

QUESTION - 2

お寿司屋さんで注文する時、値段が気になるおすしは何？



出題・大山里香子 (瑞浪市)
(答えは41ページ)



三井住友海上の安心

GK



あたり前のことがしっかりできるように

可児市立旭小学校PTA 若子 真弓



夫婦と長女(小二)の三人家族です。学校と習い事に一生懸命な娘と、遅くまで仕事に追われる主人。バタバタの毎日ですが、わが家ではこんな約束を大事にしています。

約束①「あいさつ」はしっかりする

・朝起きたら「おはよう」

・ご飯の時は「いただきます」「ごちそうさま」

・「行ってきます」「行ってらっしゃい」、

「ただいま」「おかえり」

私が子どもの頃、自分から近所の人に声をかけ、可愛がってもらっていました。恥ずかしがり屋の娘にも、人と上手にかかわるスキルを身につけて欲しいと願っています。

約束②「整理整頓」をしっかりとる

・靴を脱ぐ際は必ずそろえる。

・使った物はすぐ片付ける。

・電気は、使わないなら消す。

「誰かがしてくれるからいいや」という考えはよくないと教えています。

約束③「うそ」はつかない。

「うそ」は信頼をなくすと教えています。しかし誰でも逃げ道が欲しくなる時もあります。だからこそ、何でも話せる親子関係をつくってほしいと思っています。

子育ては悩みが多いものですが、私たちは娘を抱きしめ愛情表現をしながら、素直で礼儀正しく人に愛される子に育てて欲しいと願っています。

若子家の巻

56



話そう!語ろう! わが家の約束

わが家は私たち夫婦と中二の息子の三人家族です。働きで夜勤もある仕事のため、息子には自分で出来ることはやるように頼んでいます。我が家には決まった約束はありませんが暗黙の了解みたいなものがあるのでそれを紹介します。

約束①「朝ごはんは食べる」

朝ごはんは一日の活力です。日によってはパンだけの日もありますが、とりあえず食べてから学校に行かせると思います。

約束②「使った食器は自分で台所へ」

共働きの夫婦なので昔からしていたことを息子にもお手伝いとして始めたものが今でも続いています。たまに忘れませんが、声をかけて自分でやらせています。

約束③「風呂は最後に入った人が洗う」

いつまでもお風呂に行かない息子の罰ゲームとして始めました。洗いたくなければ、早く入ればいいのですから。



息子には多くを求めるつもりはありませんが、出来ることは自分でやるという自主性が養えればと思っています。

大澤家の巻

57



関市立桜ヶ丘中学校PTA 大澤 久志

自分で出来ることは、自分でやる

★子の思い

さかなつり大すき

大垣市立安井小学校

二年 小川 かれな

ゴールデンウィークに、かぞくで、ふくんに、さかなつりにいききました。

はじめに、ボートにのりました。こいだのは、わたしのおとうさんです。のこっている、風がひひひひ、なみもあって、ゆれました。水しぶきが、ボートの中に入ってくるくらいでした。

十分ぐらいして、つるばしよにつきました。さいしょにつったのは、おかあさんでした。つぎにおとうさんも、大きいすをつりました。わたしも、つりたいとおもいました。そしたら、小さいさかながつれました。すくくうれしかったです。かぞくで、十一ぴきぐらいつりました。ボートをこいでもどるとちゅうに、クラゲを見ました。

かえりに、おばあちゃんのうちへいきました。つったさかなをおとうさんがさばいて、おかあさんが、あげものをつくってくれました。たべたら、すごくおいしかったです。

真でしか見ることができなくなりましたが、私の中ではいつまでも生きているし、近くにいるように感じます。わたしが続いているサッカーも、天国で見られていると信じて、もっと練習に取り組んでいきたいです。きつと、いつもどこかで見てくれていると思うので、どんなことでも一生けん命取り組んでいきたいです。

亡くなった祖父のためにも

岐南町立北小学校

六年 富田 幸実

去年の年末に祖父が亡くなりました。最初は信じられなかったけれど、眠るように横になっている祖父を見て、いろんなことを思い出しました。

祖父の家に遊びに行く日は、必ず玄関で私たちが来るのを待っていてくれたり、たん生田やクリスマスにはプレゼントをくれたりしました。たくさんかわいがってもらったのに、私からは恩返しもできないままお別れすることになってしまいました。もう、祖父は写

それと、祖母は日中一人ぼっちになってしまっけれど、夏休みなどはできるだけたくさん遊びに行ってお手伝いをしたいと思っています。

祖父と約束したことは、祖母に見届けてもらいます。その日が必ずやってくるように日々努力していきたいです。祖父に、「約束を果たしたよ。」といえる日が来たら、きつと喜んでくれると思います。

いつも心の中に祖父の思い出が詰まっていることを忘れずに、自分でできることを精一杯やりくりたいです。

★家族の大切さ

土岐市立肥田中学校

三年 加藤 源基

家族はとても大切です。その思うのには理由があります。

小学校低学年の時、好きなテレビを見ていました。その時、皿を洗っていたおばあちゃんの水の音にとてもイヤイヤして、「うるせえ」と言ったのを覚えています。当時からおばあちゃんが大嫌いでした。私も僕が怒ってしまい、まともな話すこともありませんでした。それでもずっと僕の心配をして説教をしていました。

中学校に入學してもまだ、おばあちゃんは嫌いなままでした。この頃には無視するようになり、おばあちゃんもあれだけうるさかった説教も言わなくなっていました。

まともな話さないうちが一年が経ちました。二年生になって、おばあちゃんが病気になる入院しました。突然のことで驚いたけれど正直うるさいのがいなくなるだけ

★親の願い

私が常々思うこと

下呂市立東第一小学校PTA

副会長 亀山 靖之

私には、小五の長男と小一の次男がいます。

長男が四年生の夏休み一作品、工作で「本立て」を作りました。設計の時点でいろいろと考え、のこぎりなどの道具を使い作っていました。思い通りにいかないと方法を変えたり設計を変更したりして、試行錯誤の繰り返しとなりました。はじめは少し心配しながら彼を見ておりました。彼なりに工夫

をしながら作業をするのを見て、台に板を固定して丸ノコヤドリルなどで作業するときなど少し手を添えてあげました。しかし、次第にあまり私の手を必要としなくなりました。今日まで、次はこまごまどういうふうに上手く計画を立ててやってみようでした。

彼にとってはその本立てを作ったことで、自分で初めて何かを形にしていくというすくすくという経験になったと思います。一生懸命に何かに取り組んでも上手くないことばかりではない時が、この先きつとあると思います。何かで失敗してしまうことともあると思います。逃げ出

大垣桜高校 まんが研究部

宿題



★逆さ言葉

かつらがらっか
(カツラが落下)

出題・加藤大堯 (摺斐郡)

たくなるように感じてもあると思います。しかし、そこに至るまでの一生懸命さは無駄にはなっていないはず。いつか何かに役立つ時がきっと来ます。逃げてしまってもったいないです。何かにつけ、場数を踏んで肥やこころつけばいいと思います。

十年ほど前、朝早々のラジオ番組で「時間銀行」という話をしていました。誰もが毎朝八万六千四百ドルつまり八万六千四百秒を毎日プレゼントされています。使っても使わなくても二十四時間で消えてしまします。

前回の夏休みそれ以降の冬休み、春休みでは宿題や遊びなど計画的に過ごしていましたが、普段は色々な事を先に楽しみ、嫌なことは後回しにすることが多いので、これからは計画的に過ごしてほしいです。

その一瞬一瞬は、人生一度きりしかありません。自分の人生です。時間を大切に自分の目でしっかりと見て、あせりや焦りを感じて進んで

で行ってほしいものです。「一生懸命な人⇨粋な人」だと思います。

夏休みに作った本立ては、今も彼の本立てとして大変役立っています。

十五歳の子どもの親として、十五年。私はどれだけ成長してきただろう？物心ある大人として十五年、子どものように学び、身に付け、たくましく育つことができたのだろうか？

日々の生活に追われ、決して成長に値し得ない人格をもち、子どもの成長に気付かず、時間を費やしてしまったと、反省する一人の父親として、今私ができる小さな活動、そして、大きな夢が「子どもたちに残せる心のふるさとをつくりたい」ということである。

子どもの頃、私が住む垂井町は自然豊かで、四季折々の景色、土手を真っ赤に染める彼岸花、小川を飛び交うホタル、もぎたてのトマトの甘かったこと。通学路ではいつも叱ってくるおじさんがいた。出店がたくさん並び夏まつり。今でも、鮮明に覚えている。傍らに手を引く両親の姿も。地域のおじさん、おばさん。

思い出すだけで、心が洗われ懐かしく思う。そんなふるさとを、どうしたら子どもたちに残すことができるだろうか？

小学校本部役員の経験から、今できる私なりの三つの心構えは…

一つ、目を見て話をすること。仕事中心になるとどうしても意識が子どもたちに向かない。たった少しの時間でも、話の内容はなんだといい、聞いているよ、今はあなたを見ていますよ、真剣に向き合う姿勢をつくること。

二つ目は、子どもたちの個性、人格を認めてあげること。子どもながらに考えた発想豊かで危なっ

かしい意見や行動を、まずしっかりと受け止めてやること。頭ごなしの否定や矯正はせず、助言や経験談を織り交ぜ、後盾となり背中を押してあげること。

最後に、私らしい生き様を見せること。仕事に対する姿勢、地域活動に参加する姿勢、いろんな場面で向き合う父親を見せること。

そして何より、一人で生きていない、すべてに支えられて生きていくことを感じてもらうこと。学校、地域、そして家庭。「おかげさまで」成り立っているということ。

「心のふるさとをつくること」は、いつでも飛び込める大きな愛情、そして、親と子、地域それぞれが一緒になって成長していく過程、思い出が、帰りたくなるやさしい場所をつくることもかもしれない。

★ 教育の窓

「ありがとう」の言葉を生み出す活動を

多治見市立精華小学校
校長 永井 清

朝、「おはようございます」の音が校舎で響きます。

授業では、課題に真剣に取り組むとともに、活発に意見を発表する姿を見ることが出来ます。また、休み時間には校庭で楽しそうに遊ぶ多くの子ども達がいいます。

元気いっぱい明るい子ども達です。しかし、子ども一人一人に焦点を絞るとそこには色々の悩み、

迷いそして葛藤を持っていることがわかります。それぞれが成長の苦しさを感じています。そんな中で、一人一人が自分に自信を持ち、苦しいときつらいときでも自分の良さを肯定的に認めて、豊かに生きてほしいと願わずにはいられません。

誰もが、成長するにつれて、自分の至らなさを感してきた経験があります。しかし、そんなとき、自分の良さを見つけ認めてくれた親、友だち、先生にどれほど励まされてきたでしょうか。また、結果は十分なものはなくても、その過程の努力を認められたことにより、結果だけではなくその過

程の大切さを認識してきました。特に私たちが身近で大切だと思っている人から認められたことは大きな自信につながりました。これは今の子ども達も同じです。

しかし、学年があがるにつれて少し複雑になり、単純に褒めるだけでは通じなくなりました。単純になんでも褒めればよいものではなく、子ども自身ががんばったと思えることを褒めて、認め価値つけることが最も効果的となるようです。また、褒めることと共に、「ありがとう」という言葉がけも重要になってきます。

「ありがとう」という言葉には、その行為のすばらしさとともに、

「ありがとう」という言葉を発した人や他の人にとっても有益で価値がある行動であることを伝える意味があります。「ありがとう」という言葉が、身近で自分が大切に思っている人はもとより、いろいろな人から伝えられるとき、子ども達は価値がある自分を認めるのではないのでしょうか。

「ありがとう」と子どもに伝えるような活動・行動を家庭・地域・学校で仕組むと同時にそうした行動を見過ごすことなく、その都度「ありがとう」という言葉を一人一人の児童に注いでいくことが大切だと考えています。

大垣桜高校 まんが研究部

日焼け



逆さ言葉

てんぐのぐんて (天狗の軍手)

出題・北澤李奈 (岐阜市)

ちがったもの同士が、
合わせることで得る宝物

美濃加茂市立東中学校

教頭 平野秀彦

私が保健体育の教師となって、まだ数年もたない頃の話です。持久走の授業は、多くの生徒が「つらいと感じている一方、そのつらさを克服することで、心が鍛えられ成長していく種目でもある（生徒も理解はしている）ので、いろいろな工夫をします。持久走の授業は毎回2km走り、タイムを測定していました。生徒はペアを組み、走る順番を前半と後半に分け、自分の走らない時に、パートナーの一周毎のタイムを記録しながら、多くの励ましの声をかけます。そして、授業を重ねるうちに生徒は、ベストタイムも向上していきますが、途中で壁にあたります。得意な子ほど常に全力を尽くすので、そうそうタイムアップにはつながりません。苦手な子はなかなか乗らずタイム向上にはな

なかつなかりません。

ある時、先輩教師に相談したところ「集団走をするといいぞ」というアドバイスももらいました。

（なるほど、持久走が得意な生徒のスピードに、仲間と合わせて走ることで、「〇〇君はこれだけのスピードで走れるのだから、自分ももっとできるはずだ。」と生徒の気持ちが高まり、その結果、タイムアップにつながる、そういうことか。）

次の授業、集団走の意味を生徒に伝え、それぞれの班で一番タイムの早い生徒に、できるだけついでにけるように指示し、走らせました。そして次の時間、いつものように個人タイム測定をしました。ところが、思うようにタイムアップすることができませんでした。ねらいは、はずれました。先輩教師にそのことを報告すると「なんだ集団走の時は早い生徒を中心としたのか？苦手な生徒のスピードにあわせるんだぞ。」と、

答えが返ってきました。日頃から、苦手な子に対し、みんなで支えるのはよい事だと思っていました。

しかし得意な子にとっては、タイムアップを目指す場合、苦手な子に合わせて走ることがそれほど効果があるのか疑問でした。

次の時間は先輩に教えられたように行いました。苦手な生徒に合せて班毎で走り、タイムをとります。苦手な生徒にあわせて、少し前に走りリードする班の生徒、また横から、後ろから、「頑張れ！」「いいぞ、いいぞ」と声をかける班の仲間。持久走が苦手なA君、いつもは中盤から大きくスピードが落ちるのですが、苦しくなってきた時、その励ましが元気を与え、大きなスピードダウンがなくなり、必死の形相のA君。その必死な顔は、いっしょに走る班の仲間の声援をさらにヒートアップさせます。そしてゴール。持久走が得意な子のタイムと比べると、まだまだ差があるのですが、A君はびつ

くりするくらい大きくタイム短縮させました。「やればできるんだ。」大喜びのA君のかたわらに、その姿に感動し一緒に喜ぶ班の仲間がいました。

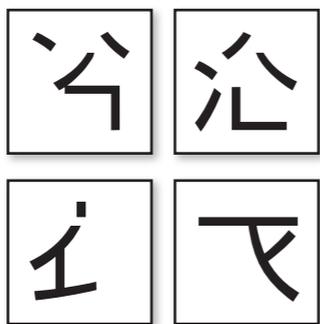
その次の時間の個人タイム測定では、班の仲間のほとんどがベストタイムを出しました。早い子ではなく遅い子に合わせて仲間と走り、みんなタイムを上げることができた。それは、こつこつ思いからでした。

A君が必死に頑張り自分の壁を破った姿に、班の仲間は刺激を受け、自分自身を見つめた結果、「自分は確かにA君よりタイムは早い。しかし、A君の頑張りには比べたらどうだろうか？A君は自分の殻を破った。自分ももっと頑張れるはずだ！」

授業の終わりの反省会では、多くの心をゆさぶる話が出ました。私は、生徒は仲間の姿から学び、お互いに成長していくことを実感しました。学校では、様々なドラマが生まれます。

Q1

4枚のカードパズルがあります。2枚ずつ重ねると2つの漢字ができます。それは何でしょう？

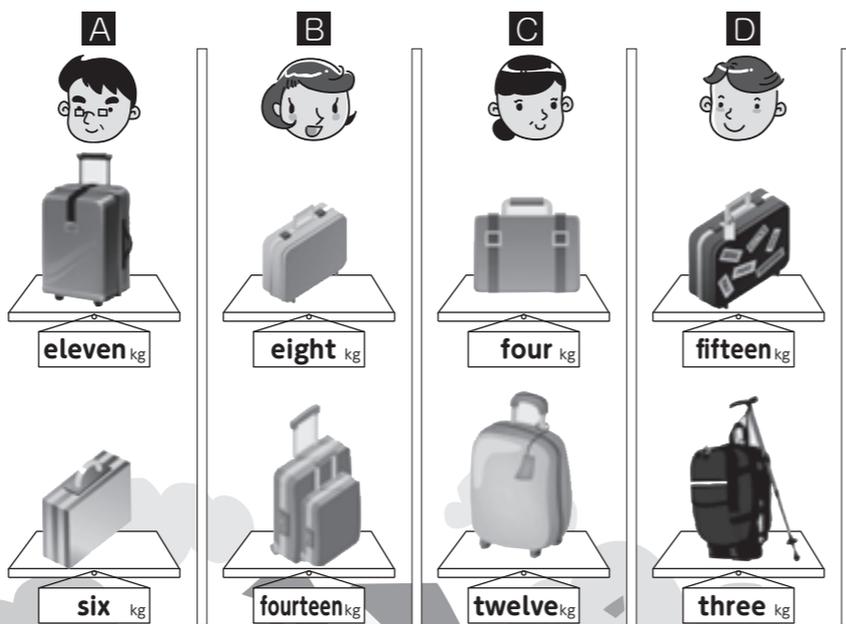


ヒント

花火や盆踊りによく見ます

Q2

空港で荷物をあずけるときの、荷物が20kgより重い人は料金がかかります。A～Dの荷物の合計が1人だけ20kgより重い人がいます。それは誰でしょう？



3月号クイズ答え

Q1 B→A→C→D

Q2 ライト(㊟や㊿)

3月号のクイズ当選者

水谷 弾(岐阜市) 水谷 知花(大垣市)
上田 英気(岐阜市) 金谷 桃奈(大垣市)
星屋 豊彦(岐阜市) 馬場 裕輔(大垣市)
北澤 李奈(岐阜市) 高野 遥(安八郡)
木戸農太郎(羽島市) 柳瀬 綺音(不破郡)
木村 龍一(各務原市) 徳田ゆづき(関市)
伊藤 慎介(山県市) 牧野うらら(中津川市)
伴 咲菜(多治見市)

※前号当選者「田中ゆかり」を「田中 葵」に訂正します。

応募方法

応募者は、はがきで、7月末までに下記の宛先へお送りください。

(1人1枚・当日消印有効)

※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824

岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●7月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

親子ではてな

7月号のクイズ



★お試しクッキング★
かみかみ
ごぼうサラダ

「かみかみごぼうサラダ」は、よくかんで食べてほしいメニューのひとつです。ごぼうのシャキシャキ感とするめのうま味が、ほどよく混じりあったサラダです。ごぼうに含まれる食物せんいは、おなかの調子を整え、生活習慣病の予防に効果があります。

ごぼうとするめは、できるだけ細く切ります。「とうもろこしやえだまめ」の代わりに「赤ピーマンやきゅうり」を使用してもよいです。ドレッシングであえてから、少し時間をおくとするめがやわらかくなり、うま味が出て、さらに美味しくなります。このサラダは冷蔵庫で、2〜3日保存することができます。新ごぼうは柔らかいので、さつとゆでてごぼうの風味をサラダにして味わってください。

材料
4人分

- ・ごぼう …… 中1本(100g)
- ・にんじん …… 小1/2本(40g)
- ・えだまめ(むき) …… 20g
- ・とうもろこし(冷凍) …… 20g
- ・焼きするめ(さきいか) …… 12g

- うす口しょうゆ… 小さじ2
- 酢 …… 小さじ2
- 砂糖 …… 大さじ1
- サラダ油 …… 大さじ1
- ナッツ(アーモンド、ピーナッツなど) …… 10g
- ミニトマト …… 8個
- サニーレタス(盛りつけ用) …… 適宜

●栄養価(1人分)

エネルギー	101kcal
たんぱく質	3.7g
脂質	5.0g
カルシウム	35mg
鉄	0.8mg
亜鉛	0.6mg
ビタミンA	151μgRE
ビタミンB ₁	0.07mg
ビタミンB ₂	0.07mg
ビタミンC	11mg
食物繊維	3.0g
塩分相当量	0.7g

作り方

- 1 ごぼうは皮を包丁の背で軽くこそげとり、繊維にそってせん切りにし、水にさらす。
- 2 にんじんは皮をむき、せん切りにする。
- 3 焼きするめは、キッチンばさみで細く切る。ナッツは、細かくきざむ。
- 4 ミニトマト、サニーレタスは、きれいに洗っておく。
- 5 ごぼうは、酢を少し加えた湯で、歯ざわりを残すようにゆでる。にんじん、えだまめ、とうもろこしは、さつとゆでる。ゆでた野菜は、それぞれザルにとり、自然に冷ます。
- 6 Aの調味料を合わせて、ドレッシングを作り、するめ・ごぼう・にんじん・えだまめ・とうもろこし・ナッツをあえる。
- 7 器にサニーレタスをしき、⑥のあえたサラダを盛り、ミニトマトをそえる。

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいつでも 〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。 採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4〜5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■平成27年度県PTA連合会広報委員

今年度の県PTA広報委員・都市広報委員の皆さんを紹介します。
「わが子のあゆみ」「岐阜県PTA新聞」に関する活動をし、発行を支えます。よろしく願います。

- ▷委員長=吉村義弘(大垣市西部中)
- ▷顧問=中野真由美(岐阜市合渡小・校長会)
- ▷担当副会長=今西武祐(揖斐郡池田中)
- ▷副委員長=西尾尚美(岐阜市岐阜西中)
- ▷委員=有田有香(本巣郡北方南小)堀江洋一(美濃市中有知小)今瀬芳尚(加茂郡上麻生中)垣内 誠(中津川市苗木中)中山圭介(飛騨市神岡小)以上評議員。川口 恵(養老郡養老小)佐藤廣志(美濃市美濃小)小木曾陽一郎(可児郡上之郷中)水野晃示(瑞浪市瑞浪中)今井勝則(高山市中山中)以上地区代表。
- ▷都市広報委員=尾畑恵美(羽島市足近小)岡田まゆみ(各務原市稲羽東小)山田英司(羽島郡西小)福田藍子(瑞穂市西小)青山宮子(本巣市本巣小)林 美由紀(本巣郡北方西小)藤田 剛(山県市大桑小)土川達也(大垣市東小)伊藤恭子(海津市日新中)西川るり(不破郡不破中)安田美保(安八郡登龍中)棚橋宣介(揖斐郡八幡小)田下哲生(関市武芸川中)石田哲司(郡上市明宝中)高橋博志(美濃加茂市三和小)日比野哲寛(可児市広見小)伊藤茂人女(加茂郡川辺北小)武市奈都代(加茂郡上麻生中)友田義光(多治見市小泉中)鈴木正志(土岐市西陵中)伊佐地健司(恵那市武並小)鈴木唯仁(中津川市西小)細江信一郎(下呂市中原小)大庭久幸(飛騨市神岡小)
- ▷編集長=渡辺良夫(県PTA事務局)

■編集後記

子どもたちの大好きな夏休みが近づきました。○○をやろう、△△へ行ってみよう、××を作ってみよう…などと意欲に満ちた声や笑顔が、汗とともに家庭の中にあふれていることでしょう。

本誌「わが子のあゆみ」は、子どもたちの健やかでこのような活力をもつ子どもたちを育てるために、保護者が親になっていくための学びの材料を提供していきます。「わが子のあゆみ」は「わたしのあゆみ」でもあります。わが子が一人立ちするまで、親として子どもに寄り添い、支え、見守りの日が続きます。

そんな家庭での子どもの養育を支援しようと、昨年十二月に条例ができました。わが子をどのような人に育てたらよいか、そのために親はどうしたらよいか。責任を感じながらも確かな答えが無く、不安と悩みの毎日ではないでしょうか。

子どもを持つ親の学校がPTAです。子育てに悩む人の集まりとも言えます。各PTAでは家庭教育学級が開かれて、子育てを学びます。一人で悩まず、お互いに悩みを打ち明けあい、気持ちを楽しんで子と共に成長していけたらいいですね。

■なぞなぞの答え

- ①ぞう(れいぞうこ)
- ②イクラ(いくら?)

■9月号のお知らせ(予告)

特集(講演)=ほめて育てる子どもの力/表紙=下米田小/学校のたからもの=一色小・小島小・久々野小・島中・双葉中/わが家の宝物=双葉中/家庭教育応援団/療育=郡上特別支援学校/お弁当の日=加納中/保健室ノート=大垣東小/私の先生=坂祝中/半生記=中津川西小/ボランティアニュース=美濃小・大矢田小・牧谷小・美濃中/1冊の本=御嵩小・藍川北中/わが家の約束=鶴沼一小・稲津中/子の思い=瑞穂南小・美山小・郡南中/親の願い=中有知小・上麻生中/教育の窓=苗木小・南濃中/お試しクッキング/ふるさとの伝承=下野小/きりりキッズ!=木田小/我がが部活=糸貫中/私たちのPTA=馬瀬中

わが子のあゆみ

平成27年7月1日 発行
初夏号 第67巻1号
通巻第438号

価額 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行/岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話/058-262-3257 FAX/058-262-3259
ホームページ/http://www.g-pta.com
Eメール/info@g-pta.com
印刷/サンメッセ株式会社

本校は美濃市北西部に位置し、清流板取川が流れ多くの緑に囲まれた自然豊かな環境にあります。平成二十一年度、美濃市の学校再編成により牧谷地区唯一の小学校として誕生した新しい学校です。校区は千三百年の歴史をもつ美濃和紙の産地であり、昨年本美濃紙がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、世界的に脚光を浴びているところです。

学校再編成の折に、紙漉きの里にある唯一の小学校として、再編前の小学校で行っていた紙漉き体験活動を継続発展させたいという願いが、保護者や学校関係者から上がってきました。そこで、地域を愛し地域に対して誇りをもつ子を育てるために、特色ある教育活動として「和紙の里活動」を構想しました。

具体的には一年生から六年生までが、最低一年に一回紙漉き体験活動を行います。一・二年生は、はがきの「ため漉き」を行います。三年生以上は美濃判の「流し漉き」を行います。これらの活動は、校内にある紙漉き室で、毎回美濃手すき和紙協同組合に所属する職人さんの協力のもと行っています。地域にいらっしゃる職人さんが自分たちのために教えてくださる。このことから、自分も大きくなったら地域のために何かしたいという思いも育まれています。また、六年生では職人さんから、これまで苦労したことや今の仕事のことなどについてお話も聞かせていただいています。さらに紙漉き体験だけでなく、原料となるこうぞの刈り取り体験や皮むき体験、ちりとりを体験するなど、紙漉きに関わる体験活動をいろいろ行っています。そして、紙漉き体験の集大成として、六年生は自分自身の手で卒業証書用の紙を漉きます。中に入れる透かしの校章も、ひっかけ・流し込みといった技法を使って自分の手で作ります。卒業式には、自分で漉いた卒業証書を手しに、自分の育った紙漉きの里牧谷の地をより誇りに思っで巣立つていくことでしょうか。

これらの紙漉きに関する体験活動とともに、和紙を生かす体験活動も行っています。色染めした和紙を使った法被づくり、美濃・紙の芸術村アーティストとの共同作品づくり、あかりアート作品づくりなどいろいろ行っています。

このように、和紙に関する多様な体験活動を行うことで、子どもたちは地域の伝統産業である紙すきをいろいろな角度から学び、よりふるさとに誇りをもつとともに自分もふるさとに何か関わっていききたいという願いをもつことができるようになってきました。



▲6年生に対する紙漉き職人さんの講話



▲卒業証書用の紙の原料となるこうぞの全校(縦割り班)ちりとり



▲校章の透かしをのせている



▲美濃・紙の芸術村アーティストとの共同作品づくり



▲4年生によるこうぞの刈り取り



▲自分の手による卒業証書用の紙すき

美濃和紙の里活動

きらり！キッズ！

大野町立大野小学校は、全校児童三八八名の学校です。学校の教育目標『夢をもち 豊かに生きる子』のもと、願う児童の姿『考える子 やさしい子 きたえる子』を合言葉に、その達成に向けて、児童会活動を中心に取り組んでいます。

今回は、その中でも、「大野小学校の四つの伝統」として子ども達が取り組んでいる活動について紹介します。

先がけあいさつ

誰にでもにこやかに、自分から「先がけあいさつ」を行い、気持ちよく一日をスタートします。お互いの顔を見て「元気な挨拶を送ると、自分も相手も、心が温かくなります。朝の挨拶だけでなく、昼間に廊下で先生やお客さんに出会うと「こんにちは。」と笑顔で気持ちのよい挨拶ができる子も、たくさん増えてきています。

「おはようございます。」
元気な自分からの挨拶で、気持ちよく一日をスタートします。



「自分の考えを自分の言葉でしっかり書くよ。」課題に向かって取り組む国語の時間の姿です。

仲間とつくりあげる授業

“分かるまで、できるまで”粘り強く課題を追究します。また、自分の考えと仲間の考えを比べながら聞く姿を目指して取り組んでいます。

学級ごとに授業を公開し、仲間を大切にした話し方や聞き方、挙手にこだわり続けて取り組み、納得がいくまで何度も挑戦し、学級で高め合う姿を今年も目指しています。



「仲間の話をしっかり聞くよ。」
「私の思ったことを最後までみんなに伝えるよ。」学び合いを大事にした道徳の時間の姿です。

だまって掃除

時間いっぱい黙って掃除に取り組む、こみつかない美しい学校をつくりたい。全校がひとつも話さないで黙々と掃除をすることが、当たり前のごとくできるようになるようになってきています。毎日使う教室や廊下をピカピカにすることが、誇りとなるように頑張っています。

昨年度、廊下の黒い汚れを校内の全てから無くせたのも、高学年の床磨きボランティアが他の学年にも広がり、みんなで取り組んだ成果です。



ゴシゴシ磨いてきれいになると、気持ちがいいよ。



自分の分担当を時間いっぱい、しっかり掃除するよ。

心にびびる合唱

各学級学年の仲間と歌声と心を合わせて練習に取り組む、聴く人の心に伝わる合唱を目指しています。

毎年、七月の「歌声集会」、二月の「かけはし（学年財産交流会・伝統を引き継ぐ会）」で、仲間と共につくりあげてきた歌声の成果を発表しています。地域や保護者の方からも「発表をとても楽しみにしている。」と、温かい声援をいただいています。

六年生は、修学旅行先の東大寺の中門で毎年合唱を披露し、多くの方から拍手をいただき、自信を深めています。

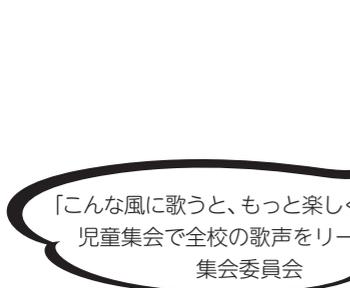
曲想を豊かに表し、
やわらかな響きで歌い上げました。
2月「かけはし」での6年生の発表



全校の歌声が、町民センター大ホールと心に響きわたりました。
2月「かけはし」での全校合唱「ふるさと」



「こんな風に歌うと、もっと楽しくなるよ。」
児童集会で全校の歌声をリードする集会委員会



我が部の特色

普段の練習は、1年生から3年生の20人の部員全員が一緒になって声を出し合い、卓球の技術を磨いています。

学年の隔てなく仲良く、しかし先輩に対する礼儀を忘れることなく、一丸となって練習に取り組んでいます。

今年度の目標

今年度の清見中卓球部は、「百戦錬磨」を目標に、目指すは、中体連での県大会出場です。

部長からのコメント

卓球は、一瞬の集中力が鍵になります。一球一球に集中して、一点でも多く相手から点が取れるように、集中して練習しています。練習時間の不足を補うべく、毎週木曜日は、学校近くのB&G体育館で、大人の人に交じって練習しています。目標を達成できるよう、精一杯頑張ります。

卓球部



我が部の特色

3年生7名、2年生6名、1年生8名の合計21名で練習に励んでいます。部員全員温かい雰囲気の中にも言葉遣い・挨拶・声を出しきびきびと動くことを大事にして取り組んでいます。

今年度の目標

昨年度惜しくも達成できなかった公式戦1勝を目指し、チーム一丸となって頑張ります。きつい練習も乗り越えます。

部長からのコメント

主将としてチームの士気を高め、盛り上げたりまとめたりするために、自ら声を出し動くことを心がけています。部活動を通して大事にしていることは、挨拶です。学校の中だけでなく全国で一番の挨拶を目指しています。伝統に恥じぬよう今後も後輩へ受け継いでいきます。

チームの課題は、自ら動くことです。練習や試合を通して、判断しきびきびと動く力をつけていくためにチームの輪を強く集中して取り組んでいきます。

野球部



バレーボール部



我が部の特色

女子バレーボール部は3年生1名、2年生4名、1年生2名の計7名と少人数なことから、学年関係なく仲よく元気なところが特色です。苦しい練習中も笑顔でプレーするようにがんばっています。

今年度の目標

声を出し、ボールを最後まであきらめずに追い、まずは公式戦で1勝することです。

部長からのコメント

練習でも試合でも今はまだ決まった声しか出せず、雑なプレーをしてしまうこともあります。どのチームの誰にも負けないような声を、一人一人が出せるようにしていきたいです。どんな相手にも強気で向かっていくチームになれるよう、心を一つにしてがんばります。

我が部の特色

清見中学校剣道部は、全中出場や東海大会優勝といった先輩方の輝かしい成績に代表されるように伝統が特色です。その伝統の看板をこれからも掲げられるよう、基本的且つ、実践的な剣道の技術練習は勿論、運動生理学・トレーニング学・生体力学・スポーツ栄養学など、科学的に裏打ちされた練習を加えて、心身ともに立派な剣士を目指しています。

今年度の目標

清見中学校剣道部に相応しい剣士になります

部長からのコメント

清見中学校剣道部は今までに数々の歴史を残してきました。ですが、今年は人数が少なくメンバーが揃わなくて、とても厳しい状態です。そんな中、一人ひとりが上位へ行けるように日々の部活を精一杯頑張っています。どうぞ応援よろしくお願いします。

剣道部



吹奏楽部

我が部の特色

今年の吹奏楽部は15人。「心を奏でる」を合言葉に明るく元気に活動しています。少人数のため昨年度からコンクールには久々野中学校と合同で出場しています。清見中のメンバーだけでは味わえない大人数での演奏の醍醐味や楽しさを味わい、またなかなか合同で練習ができないという厳しい練習環境の中で曲を仕上げていく難しさも知りました。昨年よりも心も演奏もレベルアップできるようがんばっています。

今年度の目標

「吹奏楽が大好き」という心とより強くなった清見中・久々野中の絆を奏でて、「県大会金賞」をめざします。

部長からのコメント

自分自身はもちろん、部員全員が「吹奏楽部に入って本当によかった。楽しかった」と思える活動ができるようにがんばります。

夢中！熱中！ 我らが部活

高山市立清見中学校



バスケットボールクラブ

我が部の特色

清見中バスケットクラブは、クラブならではの小中一貫練習を続けています。先輩方と常に練習をしてきているので、中学校に入った時も十分に練習についていける体力・精神力がついています。また仲間や周りへの思いやりをもって日々、練習しています。

今年度の目標

今年の中体連にはメンバーが揃わなくて、出場はできませんが、来年の出場を目標に個々のレベルアップを目指し、頑張っていきます。

部長からのコメント

4名という少人数ですが、責任感をもって毎回変化のある練習をしていきたいと思っています。

「育てよう、親子の和 繋げよう、地域の輪」 ふるさと大好き かみのごうごう

私たち保護者と地域の紹介

PTA会員六十一世帯、全校児童九十一名の小規模校です。本年度より、上之郷小学校運営協議会(コミュニティースクール)を設置し、より地域の中心的なコミュニティとなる気運が高まっています。PTA主催の総会やあいさつ運動、環境美化作業などの参加率は常にほぼ一〇〇%で、とても協力的です。

校区が広く、全校児童の二十九%(二十六名)がスクールバス通学をしています。児童数は微減傾向にあり、最大二十名の単学級となっています。

豊かな自然に囲まれ、少子化傾向ではあるものの三世帯同居家族が多いこともあり、自浄力があり非常に協力的で、温かい地域です。

PTA重点活動項目①

親の責任や役割を意識し、家庭教育の向上に努めています。

(1) 一家庭一実践の推進をはかっています。

夏の課題として親子で取組を行うように働きかけています。夏休み後、全

庭からその活動レポートを提出してもらいます。その内容をまとめたものを家庭に配布し、活動内容が広く深くなるようにしています。

(2) 「早寝、早起き、朝ごはん、そして歯磨き」の実践をすすめています。歯の取組は本年度で十年目を迎えました。ここ数年、DMF歯数はほぼ0を記録しています。

母親委員会は長期休業(夏と冬)に歯みがきカレンダーを手作りで作成し、それを全家族で取り組んでもらっています。その評価も運動会や全校集会で保護者や児童を表彰しています。

その他、歯と口にかかわる授業を計画的に位置付けており、保護者も一緒に学んでいます。



歯みがきカレンダー。9月運動会の午後にある「親子運動会」の開会式で表彰



1年生が歯と口の健康について学んでいる様子。御嵩町歯科衛生士の指導で1年生が保護者とともに歯と口の健康について学んでいる様子。



小中合同の家庭教育学級で、職業訓練校の見学をしている小中の保護者。その他、公立・私立の高校も見学

PTA重点活動項目②

子どもが成長するための、よりよい環境づくりを支援しています。

(1) 防災(減災)活動を実施しています。上之郷地区が集中豪雨による土砂災害を受けてから四年目になります。

協力的に感謝し親子で汗を流しています。大切な環境教育、ボランティア教育、キヤリア教育になっています。

PTA重点活動項目③

子育て活動を地域で支えています。

(1) あいさつ運動「いつでもどこでもだれとでも」を実践しています。

児童が地域の方や大人に進んであいさつすることで大人との会話を学び、地域との交流が深まります。地域の方の目が児童に向くことで児童を見守り、安全を守ることとなります。



今年2月の厳冬期、通学路の防災・交通安全・不審者の視点で危険箇所を確認しながら登校する親子登下校

(2) 声かけの実践をすすめています。夏期休業中のプール開放の時には、保護者はプール当番だけでなく、不審者対策や交通安全のために分団引率も行っていきます。

また、「上之郷子ども見守り隊」として全家庭がそのステッカーを持ち、



うぐいす会主催で父親のボランティアを募集し、低中高学年に分かれて行われた楽しみな読み聞かせ



低中高学年の3種目と地域の方と触れ合う種目で楽しく過ごすPTA役員主催の親子運動会

- (3) 地域の方々との交流を含めた学校行事の活性化に協力しています。
- ① 運動会の午後に行う親子運動会
- ② 上之郷地区の方々に組織されたボランティア団体「うぐいす会」による読み聞かせ
- ③ 上之郷小学校校区防災教育推進委員会とともに「防災体験学習」
- ・御嵩町防災訓練への全校参加
- ・防災運動会やオリエンテーリング

自衛隊の協力を得て、地域や保護者も参加した防災教育体験学習での記念撮影。この写真の前日4年生は自衛隊のテントで隊員と宿泊



ふるさとと地図の一部を海辺に想定し、津波が起きた時の避難について親子で考えた災害図上訓練(DIG)



「自分の命は自分で守る」ため上之郷小学校で行われた様々な防災教育により、児童は自分で考え、安全を確保する力を年々つけてきています。

学校での防災授業。地域と連携した防災訓練、親子登下校訓練の実施、防災教育講演会の開催。本年度もPTA防災(減災)活動として排水路等の整備、防災避難袋の校内設置を行います。

(2) 美しい学校環境になるように、「環境美化作業」を行っています。

夏休みの終わりが、学校の除草作業をします。児童と母親は運動会に向けて親子でグラウンドの草取り、父親たちは草刈り機で校舎周りの草刈りを行います。その日に来られない家庭は別の日に自主的に草取りをしてくれま

(3) 親子で汗を流し、資源回収を実施しています。

中学校PTAと共同作業の資源回収。数少ない収入源です。地域の皆様のご



小6児童と中3生徒は学校で資源の整理、それ以外の児童生徒は親子で地域の回収を行う小中合同資源回収